

8

いもつ原

モ
ノ
カ
棲
む

淫
ら
で

この島には

邪悪な



この島には
淫らで邪悪な

モノが棲む

8

原つもい





〇〇三

第三十七話

〇三二

第三十八話

〇六一

第三十九話

〇八七

第四十話

一二五

第四十一話

一五九

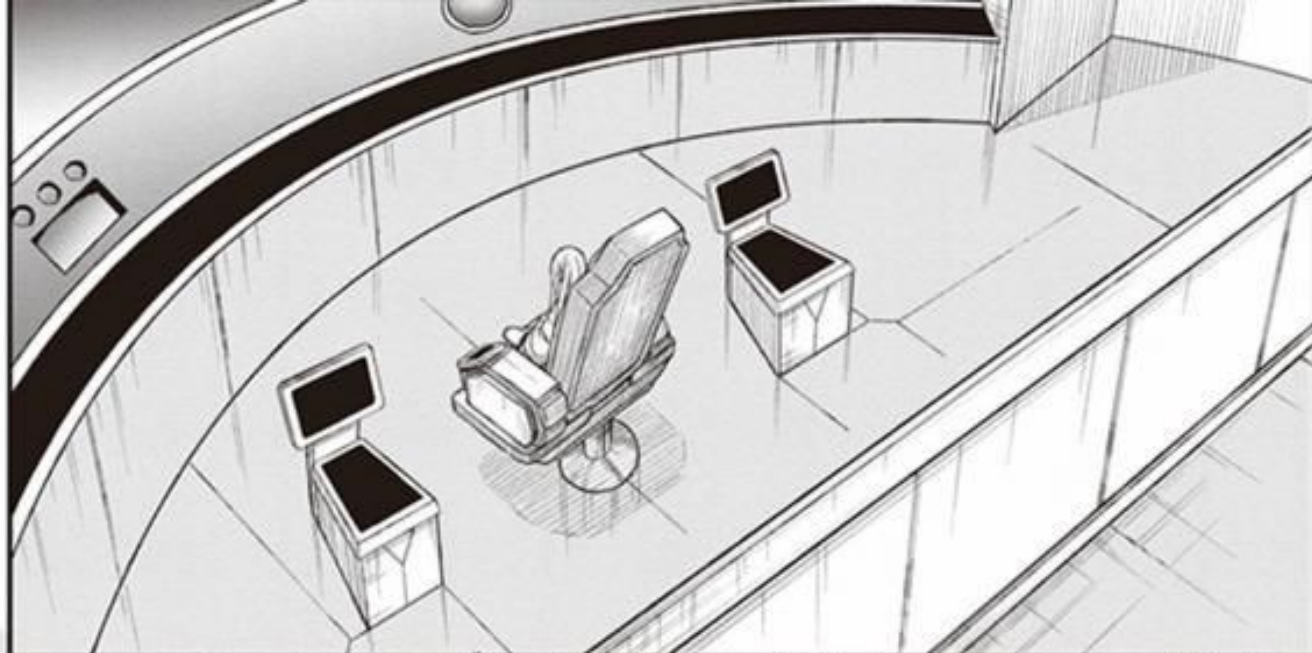
第四十二話

二〇三

第二十三・五話

第三十七話

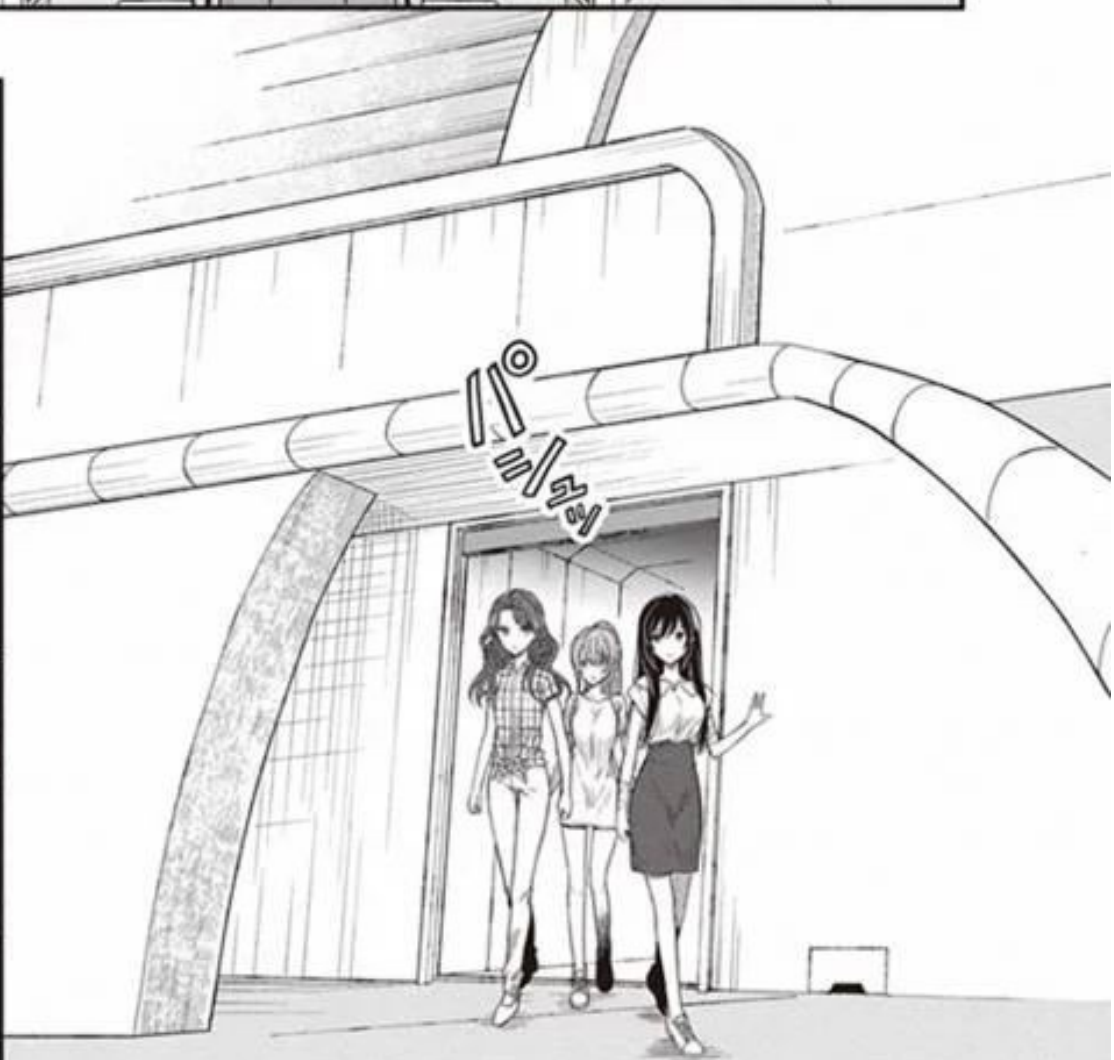
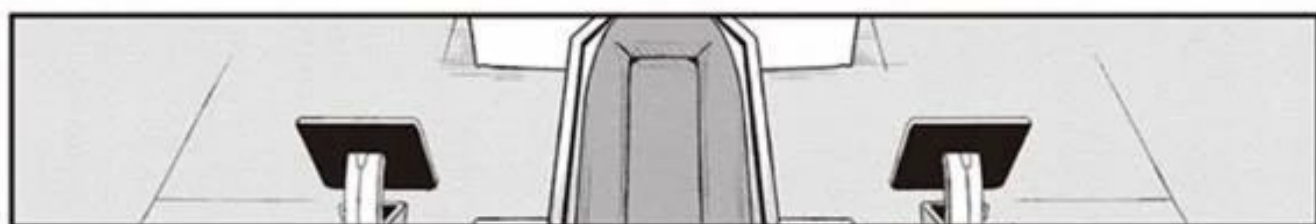






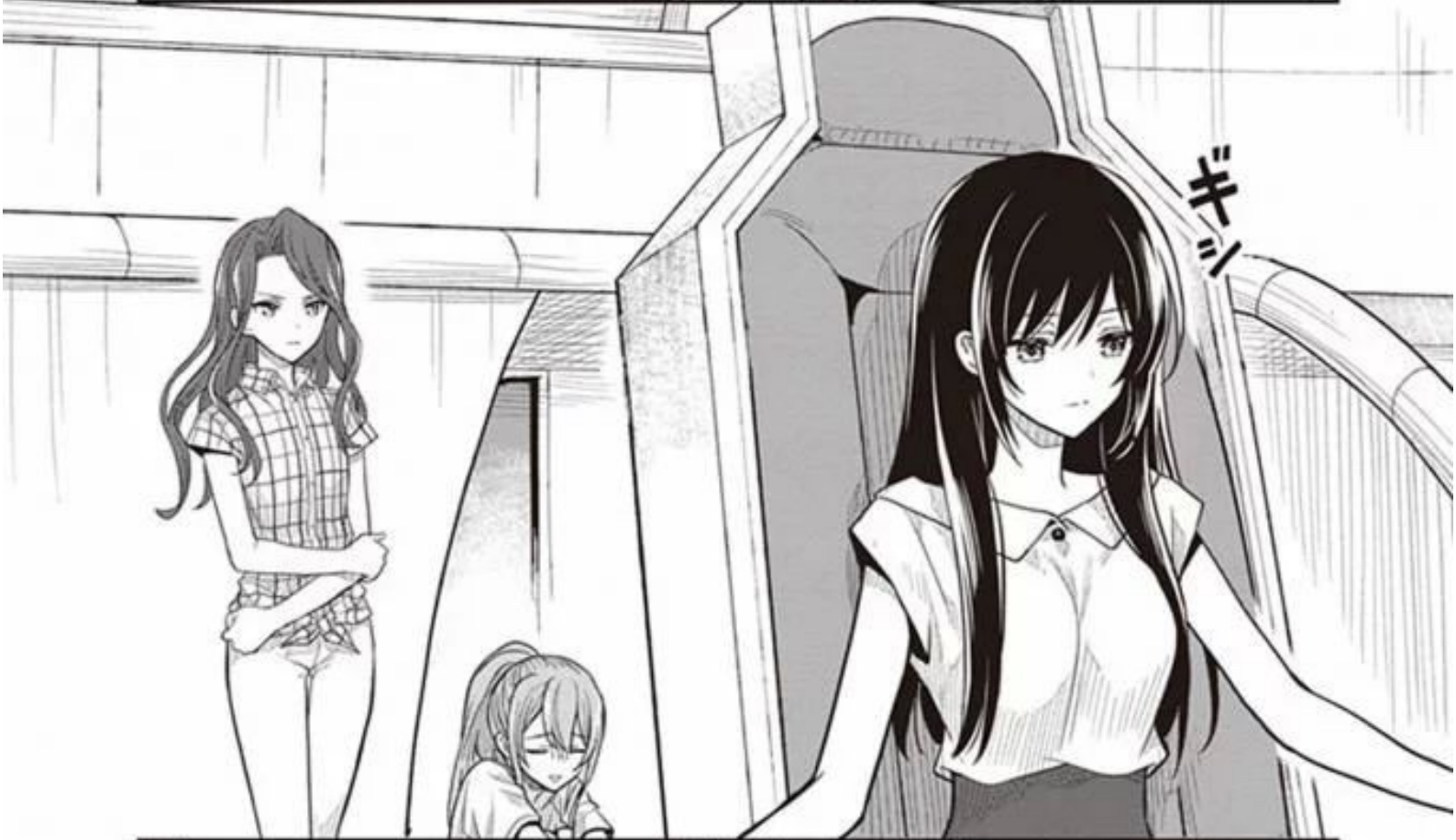
そこが
かわいいところでも
あるのじゃが…













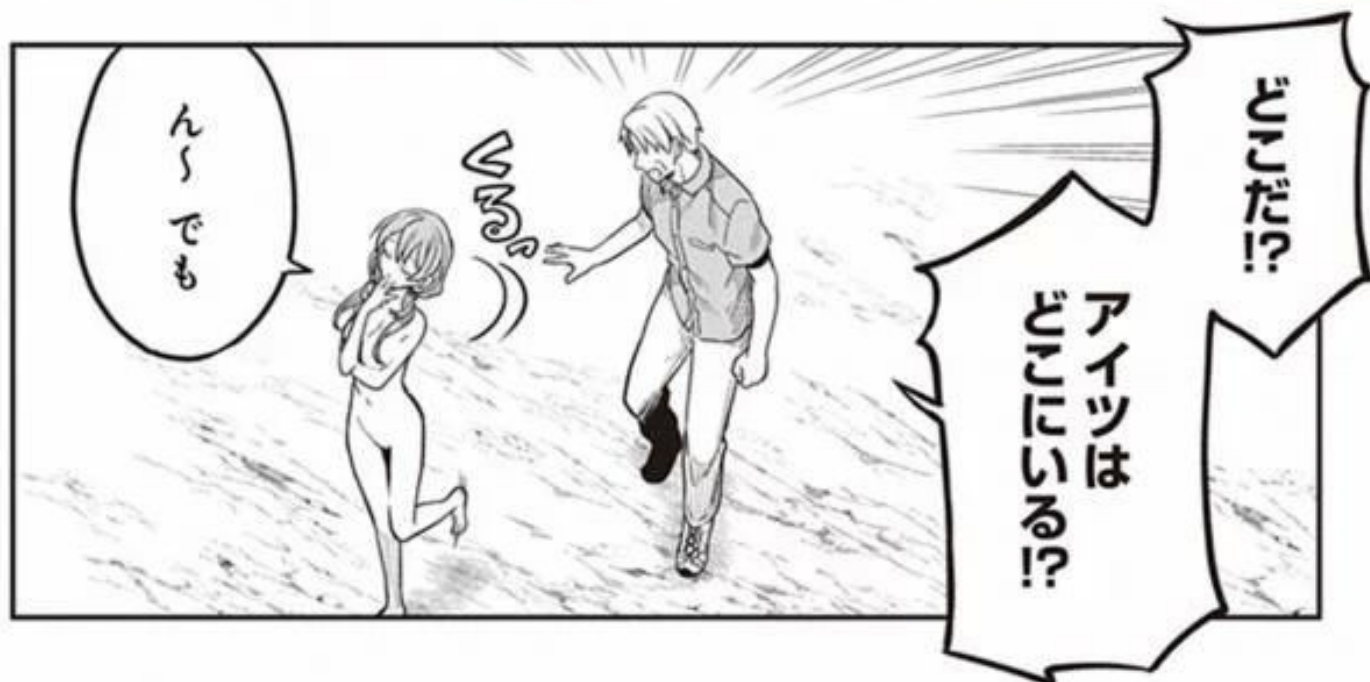


いばしょ
居場所

おし
教えてあげよう
おも
かなって思っ



カッ



どこだ!?

アイツは
どうしてさ!?

ん〜でも

くっ



その代わりー

カッ



おひさま
言葉



あ

☆

うう...
うう







この暴力で
支配されてる
感じ

たまらない
わあ……



















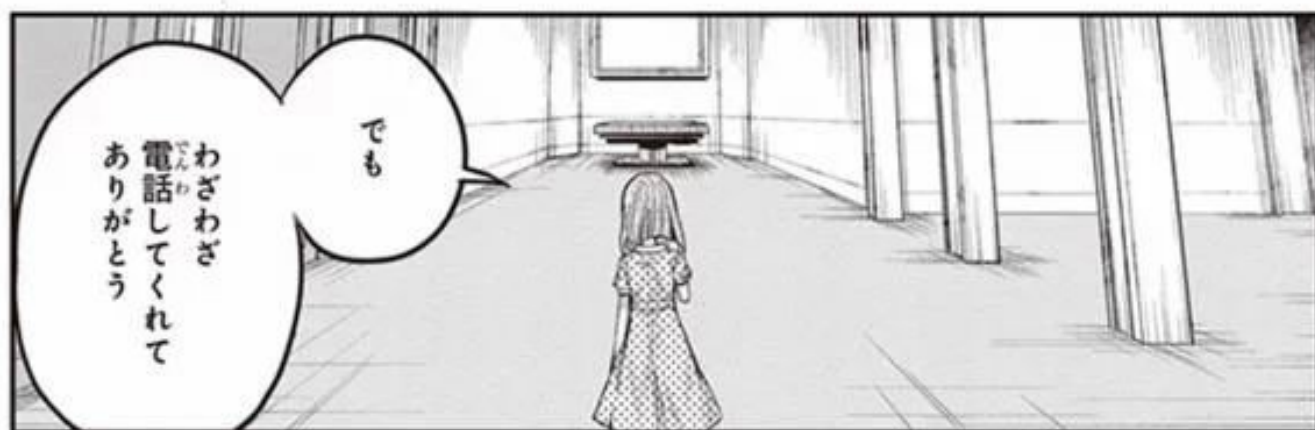


だま
騙されていますよ

そもそもここに
いる
我々の命は
偽りの命

一郎太さんが騙したと
あなたは言いますが
すでに私たちは
一郎太さんと
共犯なのです

言わば
世界を騙し
呪いの樹に
だま
騙されている
ようなもの







この島には
淫らで
邪悪な
モノが棲む



第三十八話



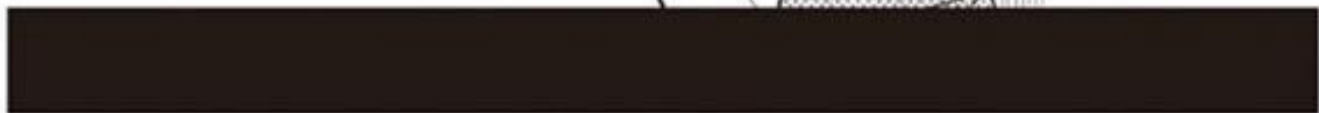














…どういう
ことだ？

海は女衆の
冷静な
まとめ役

媛長が
あの性格だから
随分と
助けられたが…



そういうことなら
簡単な方法がある







少し
虫除けを









そうです

長い長い
私の人生で



初めて誰にも
渡したくないと思った
私の宝物なのです

きっと



ただの勘違い
ですが





…気にする
のなら



わたし
私を後悔しないで
いいくらい
気持ちよくして
くださいな









あの時

大仁田の殿様が
攻めてきて
男衆はほとんど
死にかけて

女衆も身体を
汚された

一郎太さんが
どうしたかを
聞いた時に

男衆は身体を
治すことを望み
私たちは古い身体を
捨てることを望んだ



永遠に同じ身体を
治して生き続ける
化け物と
永遠に身体を
乗り替え続ける
化け物……

一郎太さんが作った
二組の化け物が
お互いに殺し合うこと
になるなんて

……何の
因果でしょうか

ギョッ

でも
滅べば
いいのです

化け物など

……居ては
いけないの
ですから



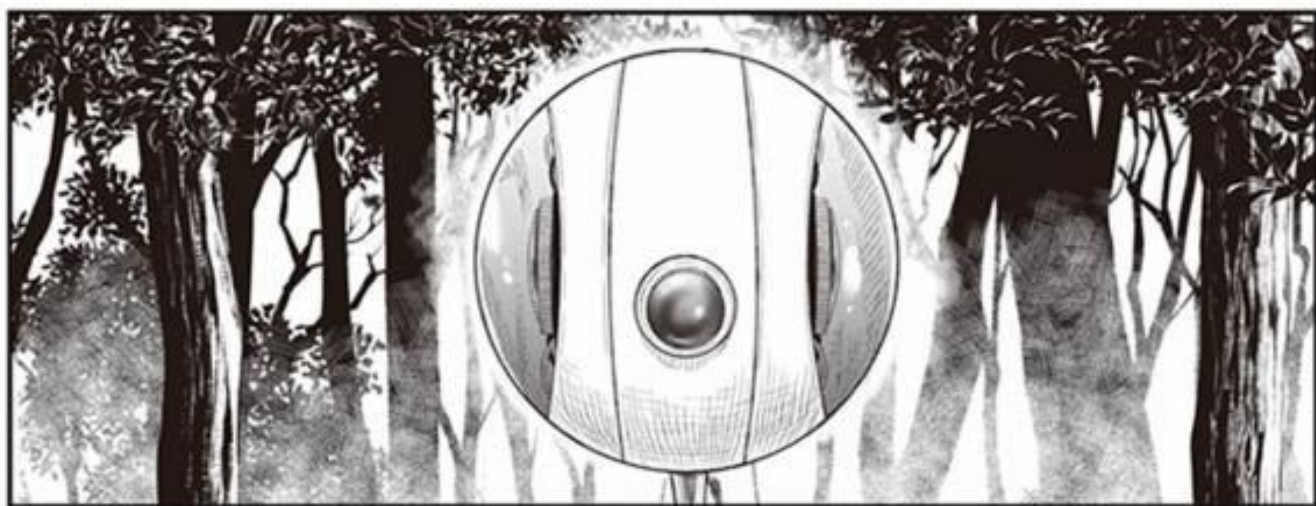


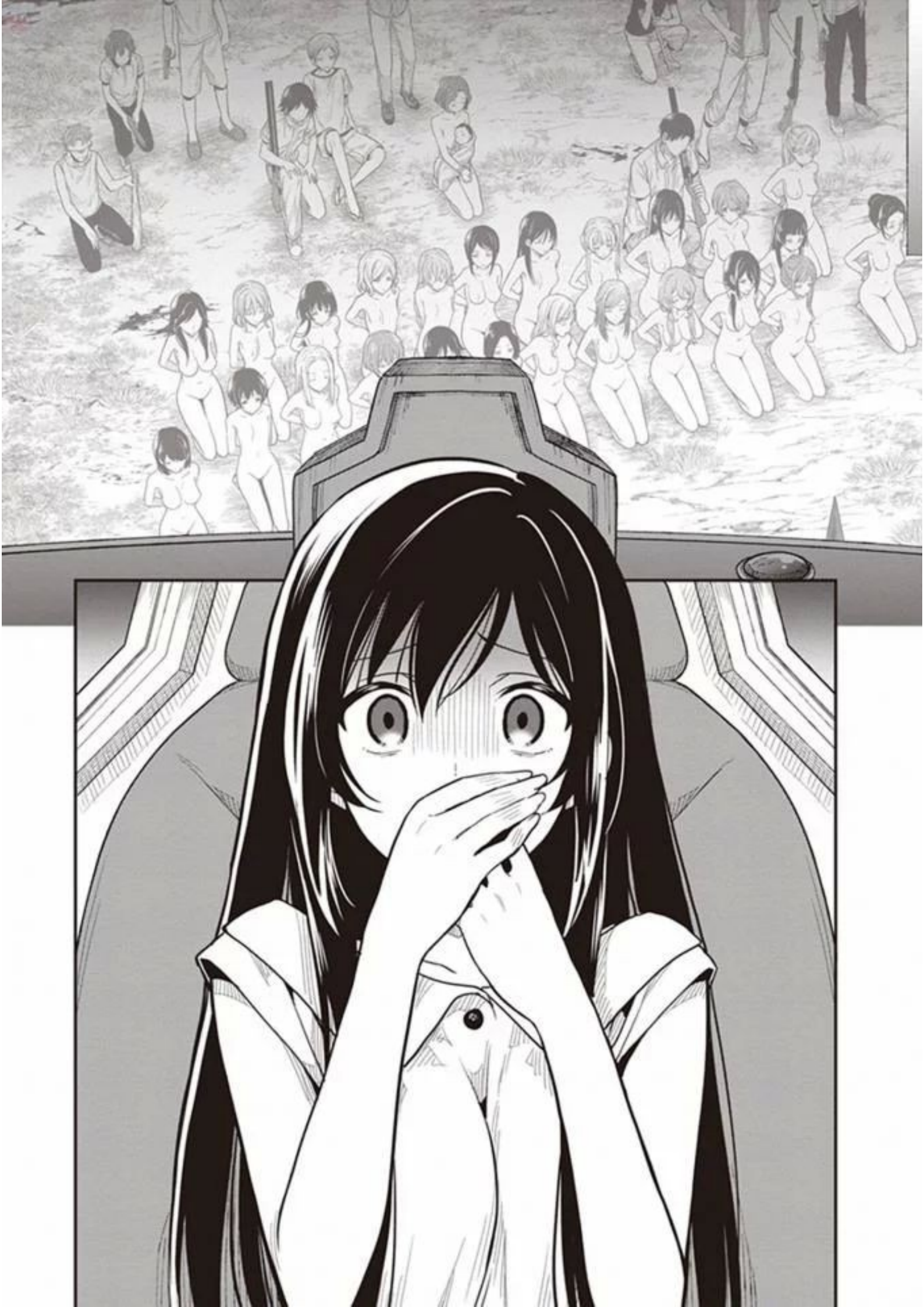
僕の宝物は
なんだろう？







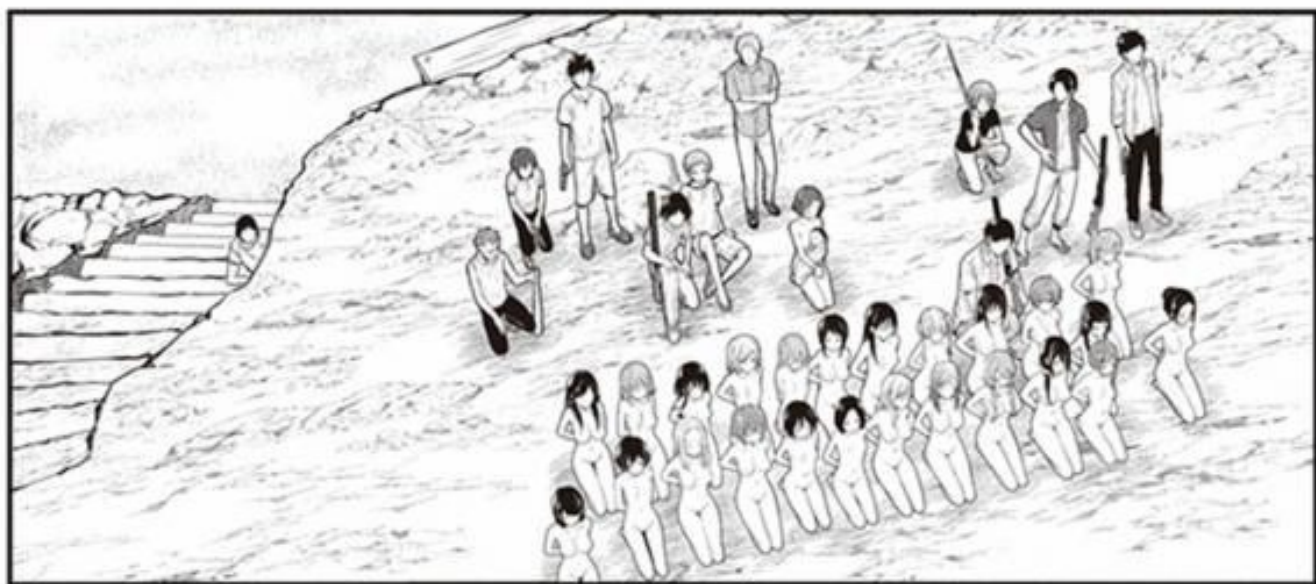
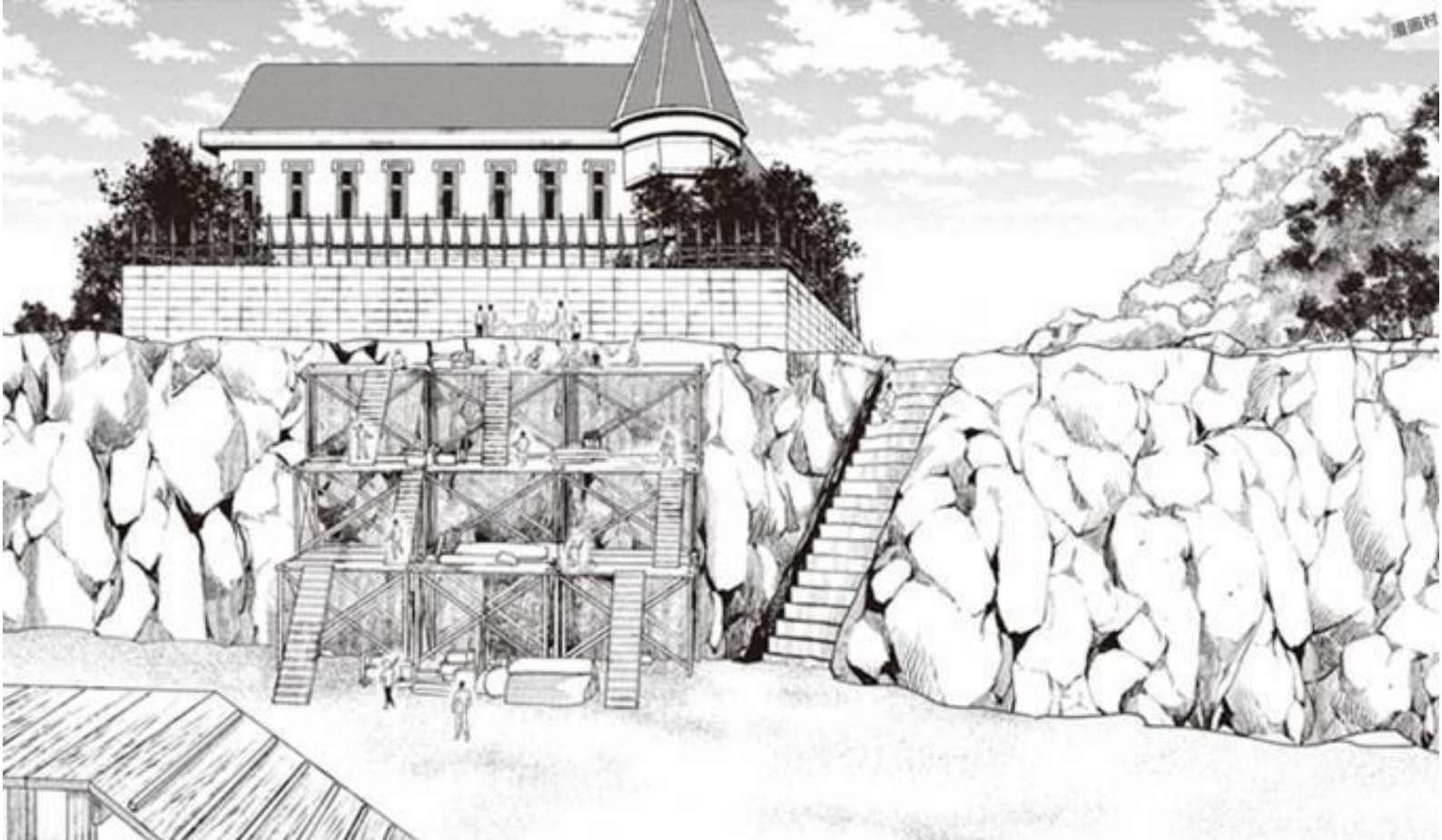






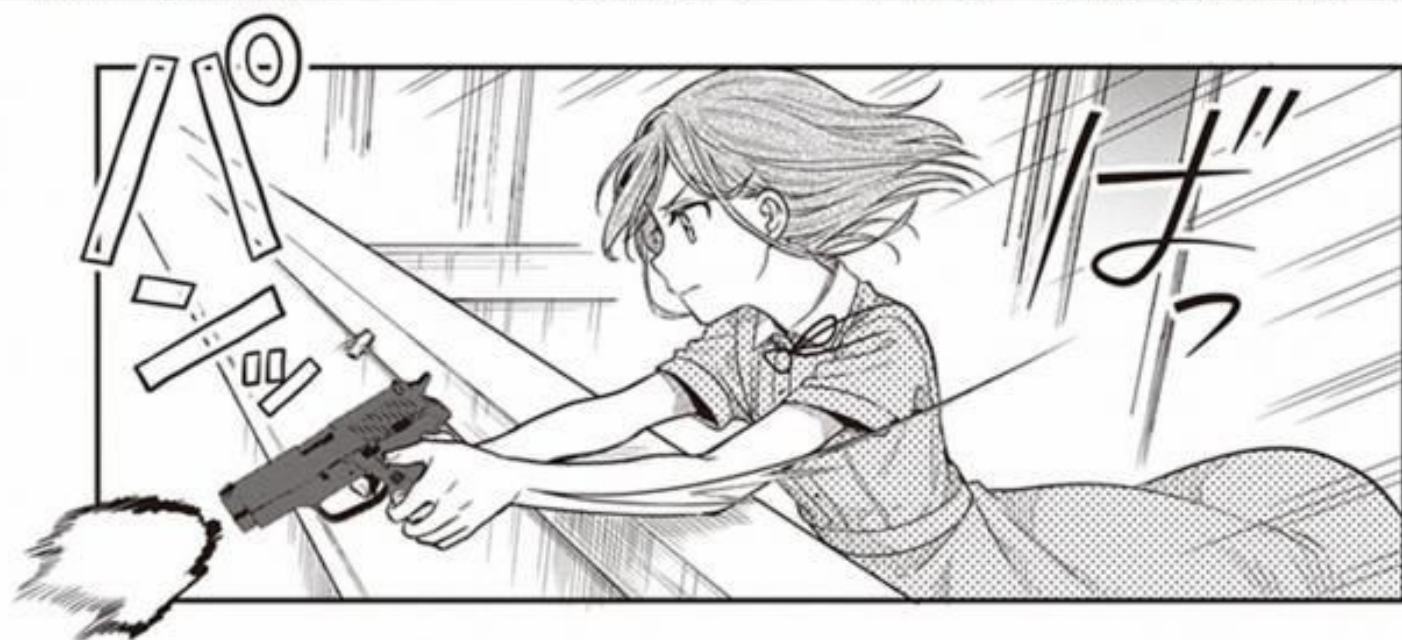
第三十九話



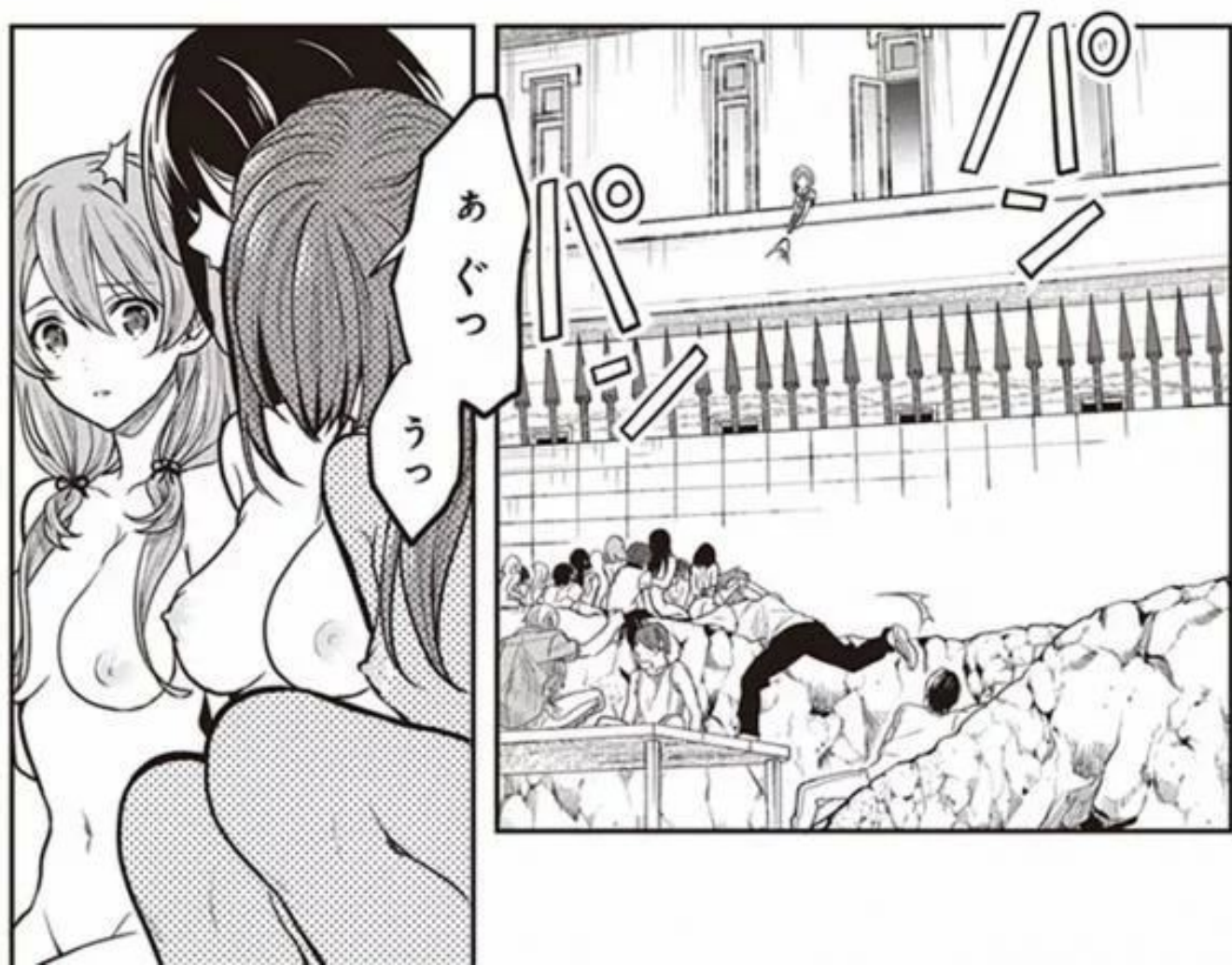




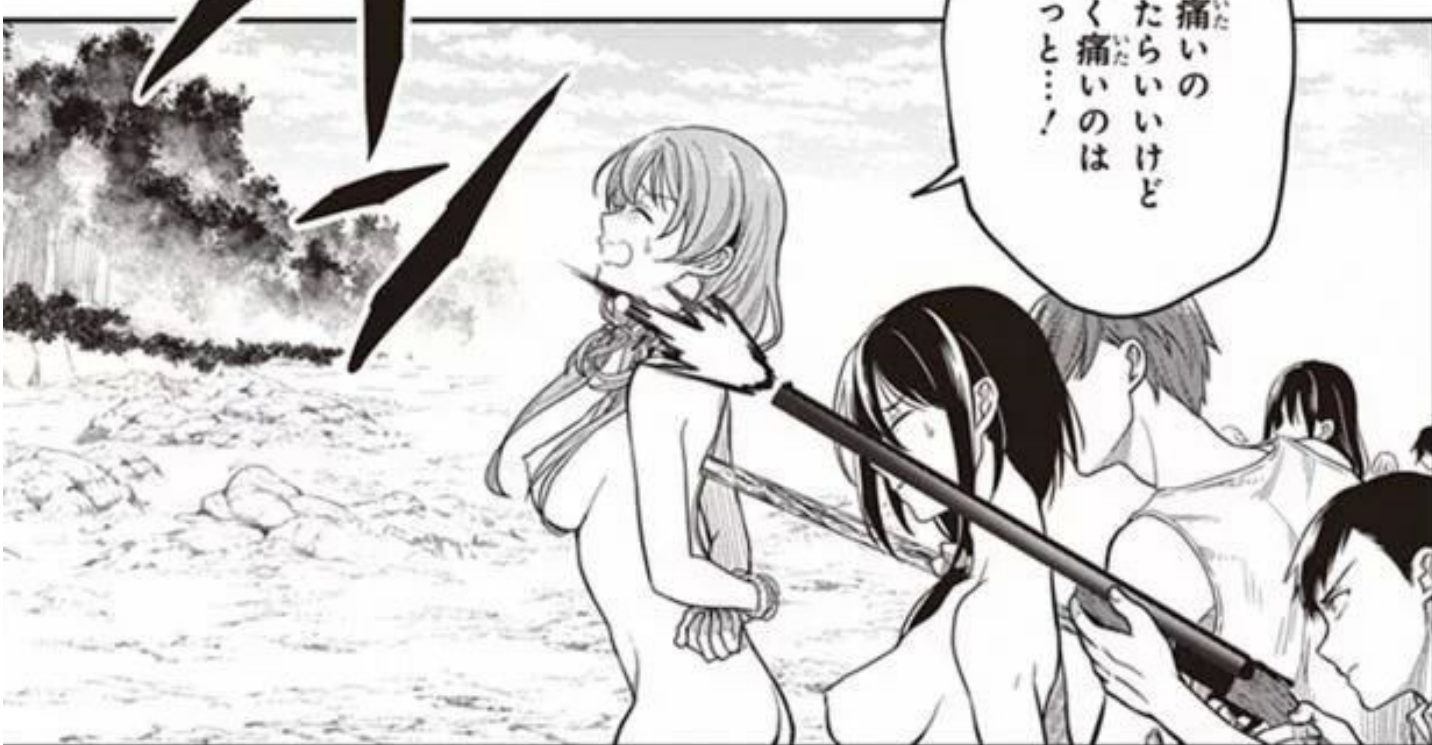


















ちよ...

ちよつと
こういうの
困るんだけどお...



ねえ...

せめて
頭撃って
もらって
いいかな?











僕は何してたら
いいかな？

いい子で
待っていて
くださいな

それで
いま
じゃうぶん
今は充分ですよ









しょうはいどうぐ
商売道具なら
また増ふやせるさ

ってかやりやあ
勝か手に増ふえるだろ





…これが
人間にんげんだよ

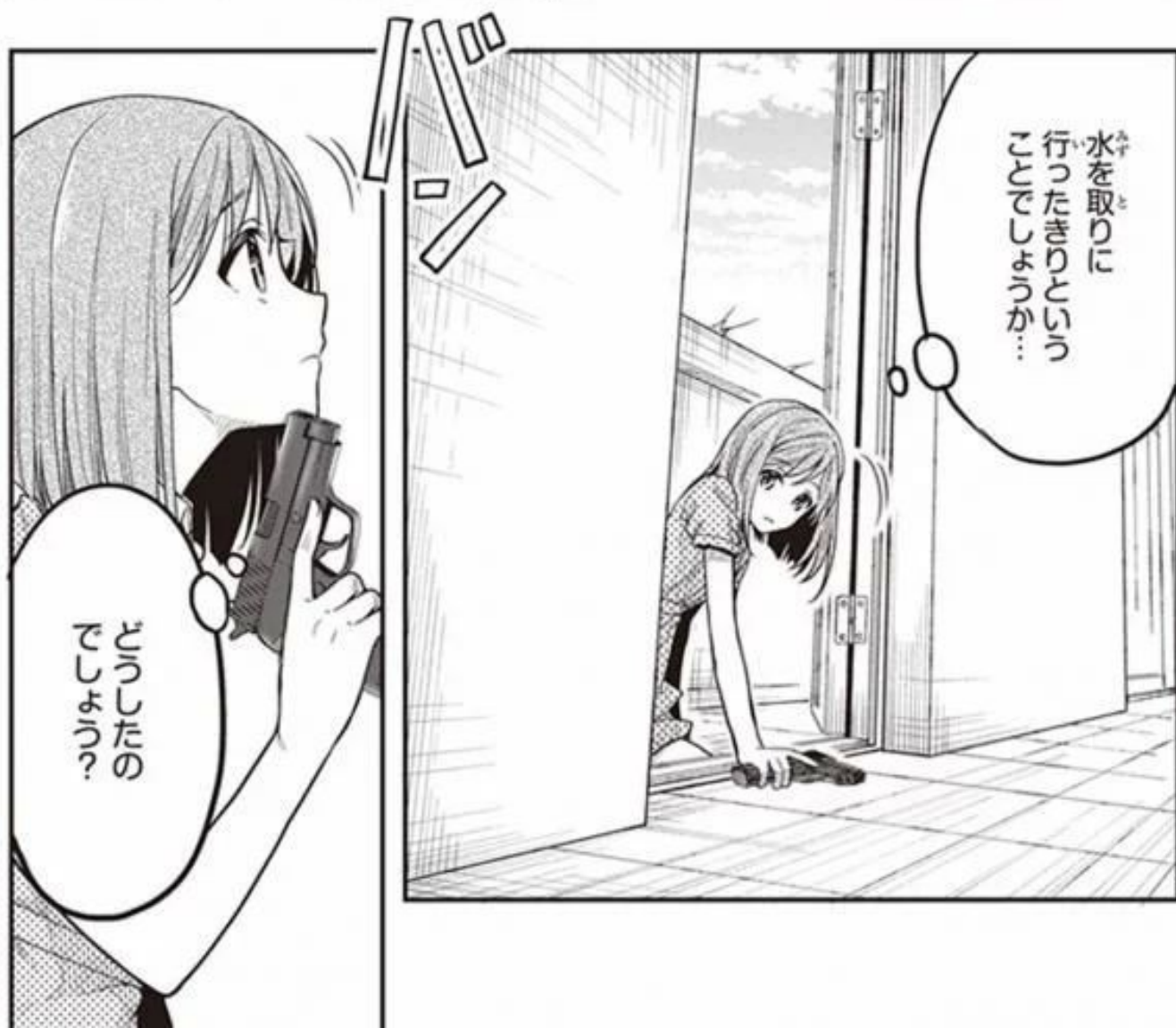
この島には
淫らで
邪悪な
モノが棲む

この島には
淫らで
邪悪な
モノが棲む



第四十話







SSSSSS
.....toJJVSS

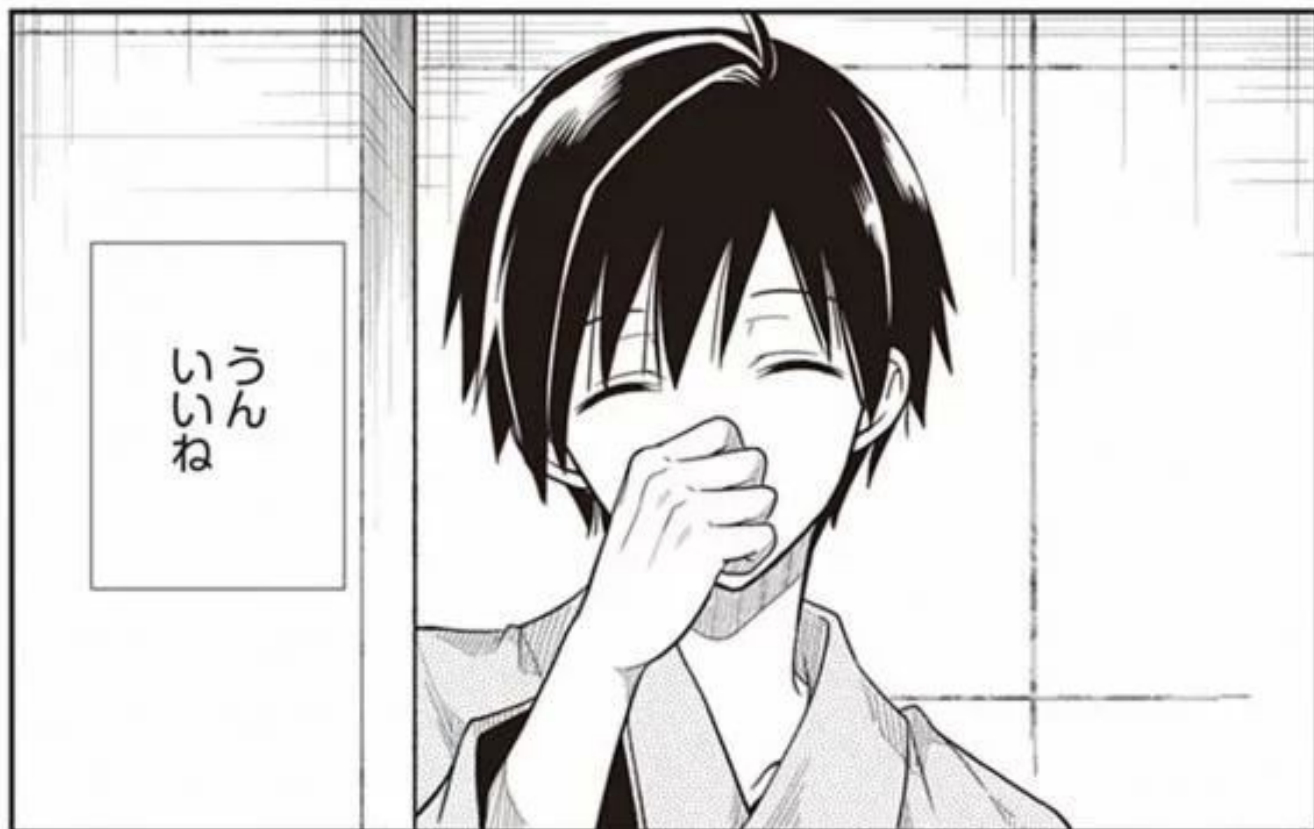
そして

大切なものを
大切に
大切だからこそ
傷つける存在

大切なもののために
そうでないものに
破壊をもたらす存在

人間にんげんって本当ほんとうに
おもしろい







そうだった
そうだった

わす
忘れてた



僕はあの
非人間的な役目から
人間になったんだった







あれ…
だよな？

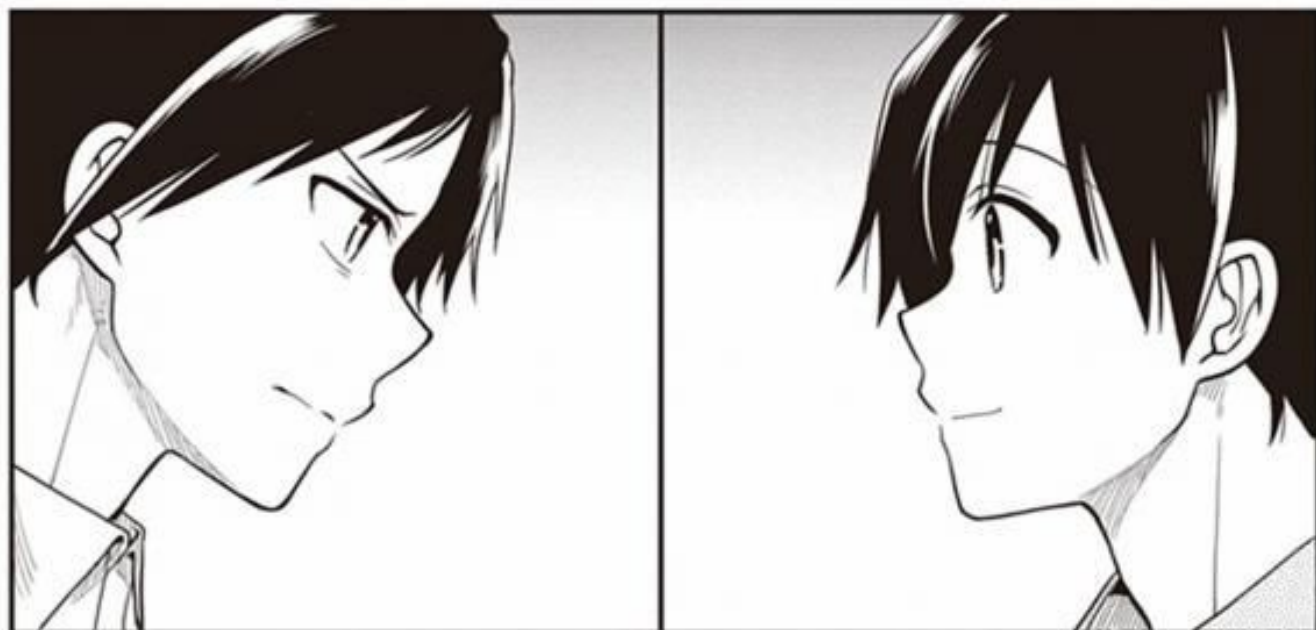
間違っ
てない
よな？

てま
手間が省
け
た
っ
て
こ
と
だ
ろ



なんで
睨
む
ん
だ
い
？







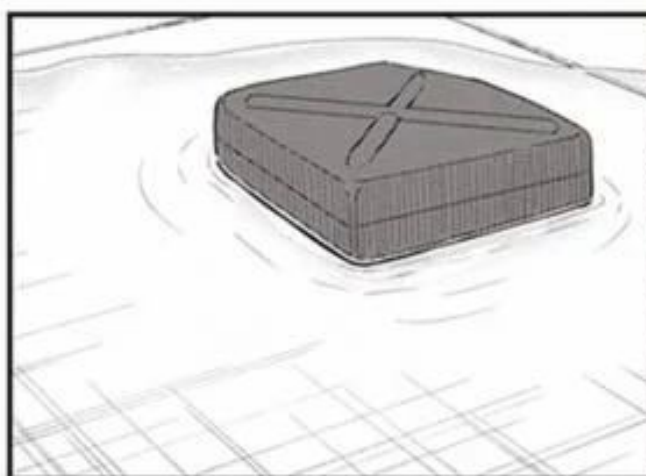
はあ!?





































逃^にげて…

ください











黙れっ

ガッ

気でも
狂ったのか!?

ガッ

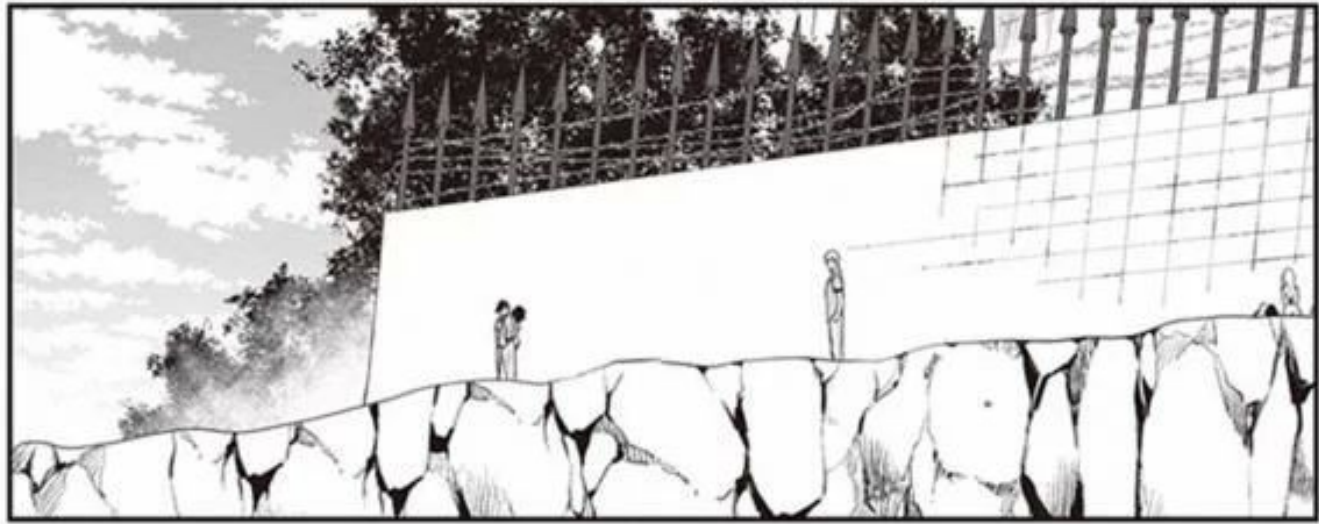
うわあああああ!!!



……
なんで

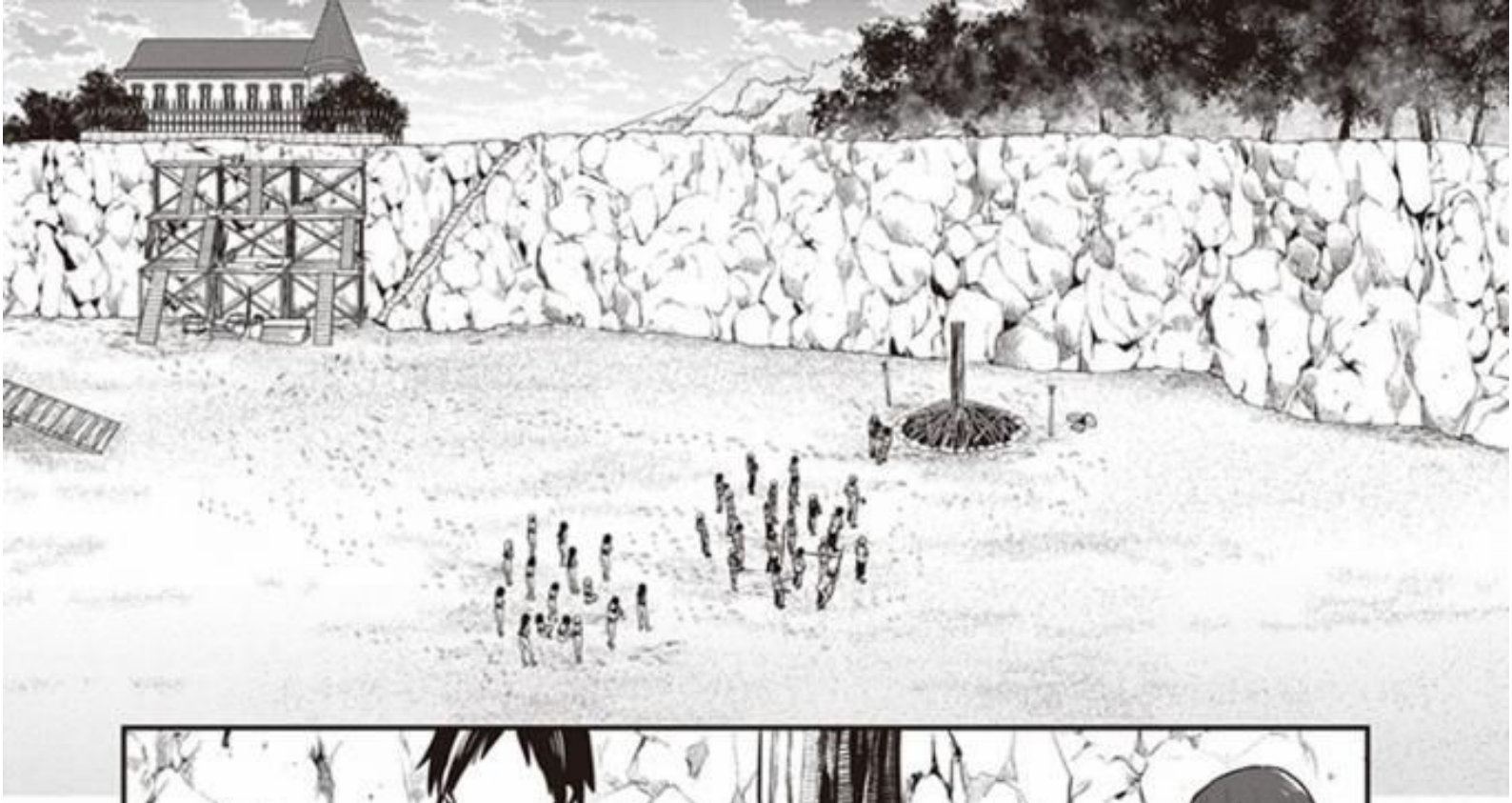


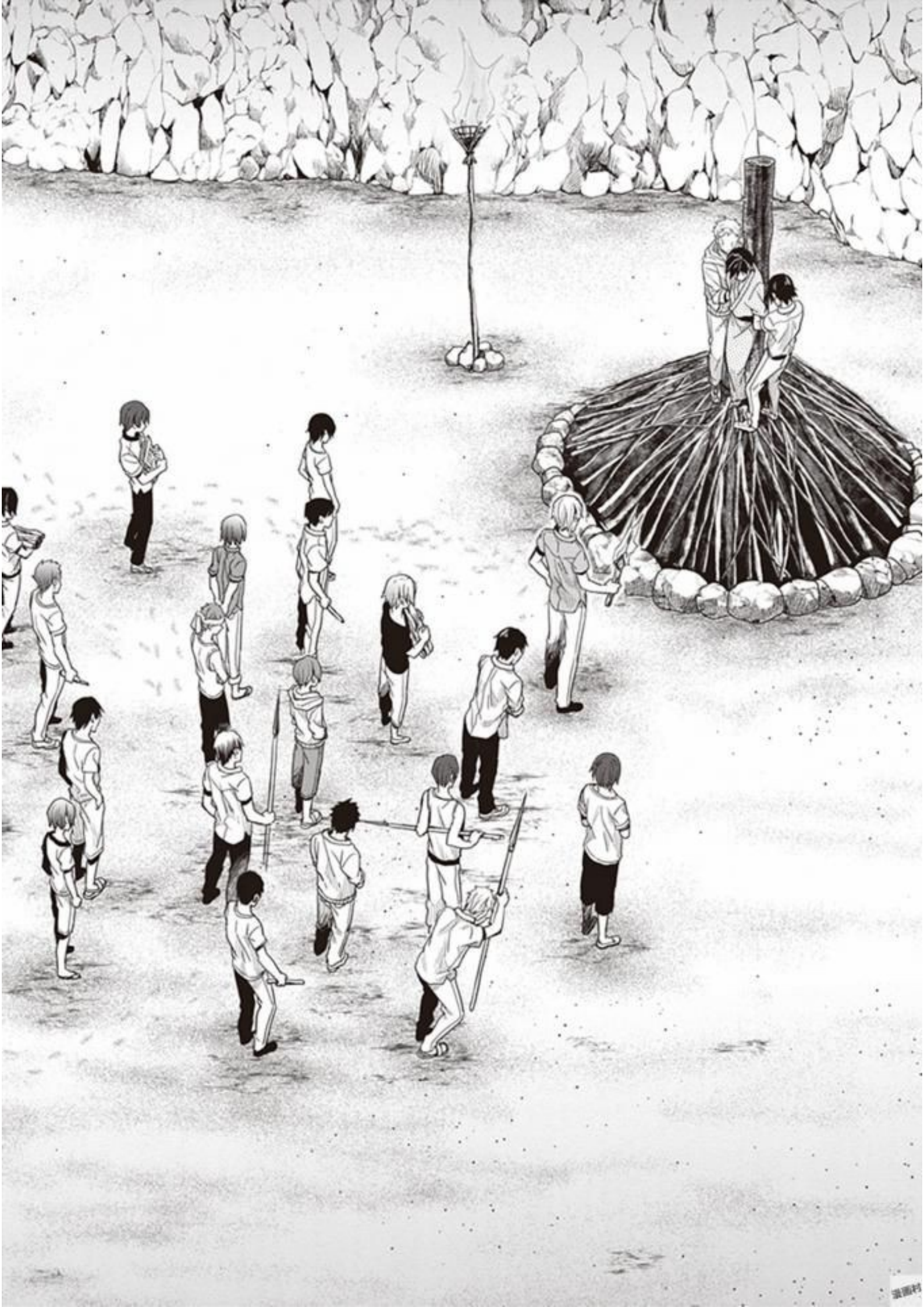
なんで管理人
こんな時に
いなくなつたんだ…



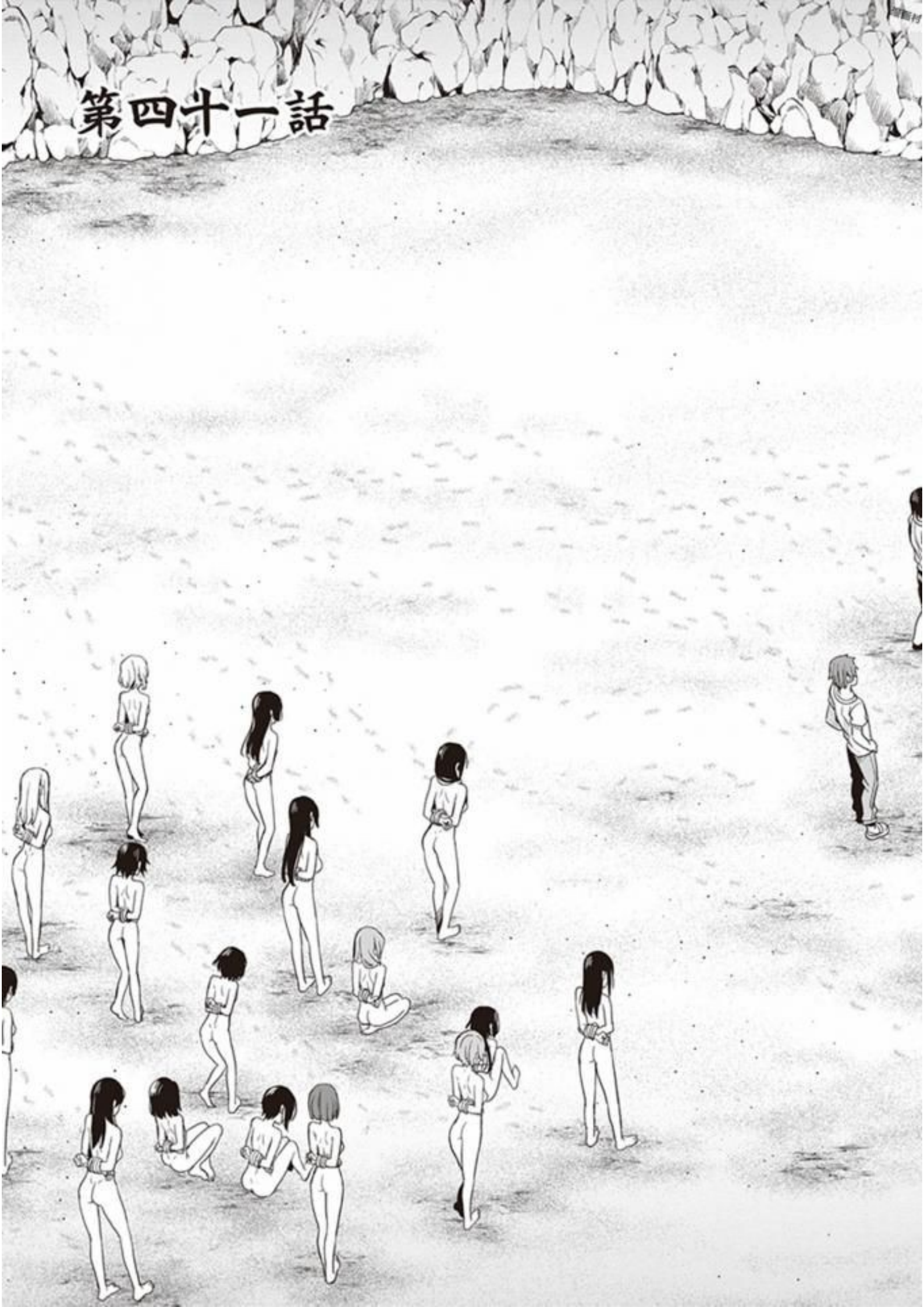


この島には
淫らで
邪悪な
モノが棲む





第四十一話





どうして
こうなって
しまったのか





痛みも
楽しみも
快乐も

すべて



たしかに
行動は俺が
選んだもの
じゃない

俺にはそもそも
誰かの快感神経を
刺激する能力
なんてない



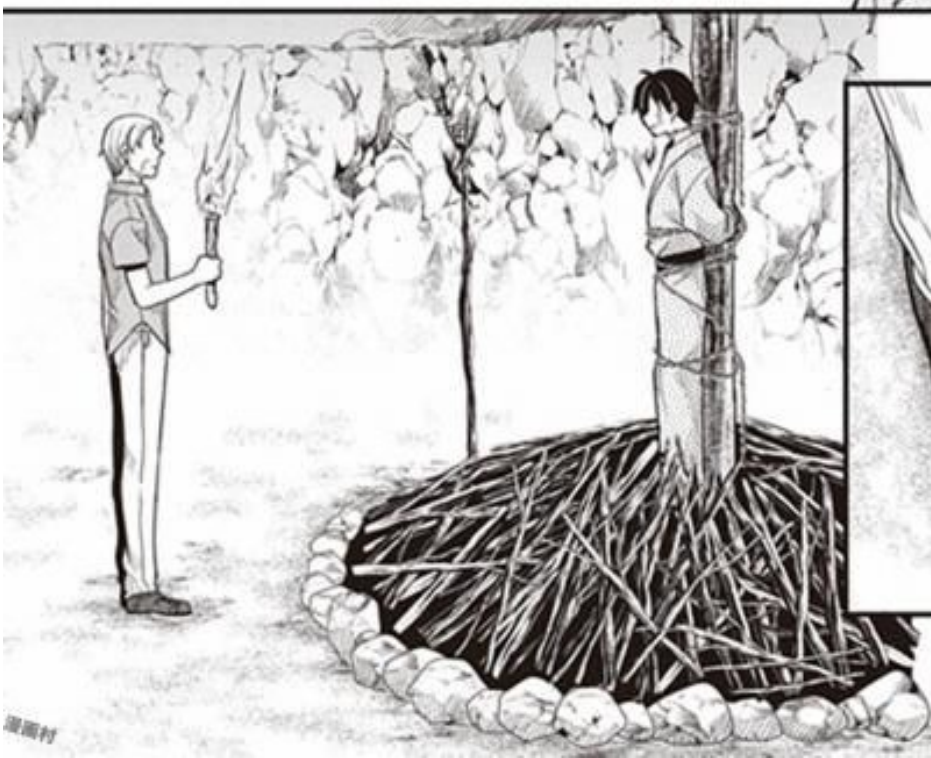
なのに
楽しんだ



だから……



それ
だから……





たぶん
その罰^{ばち}が
当たったんだ





ああ
……そうか



俺はここで
死ぬのか

俺は
やっぱり
そうなんだ

死んだほうが
いいような
ダメなやつなんだ



だって

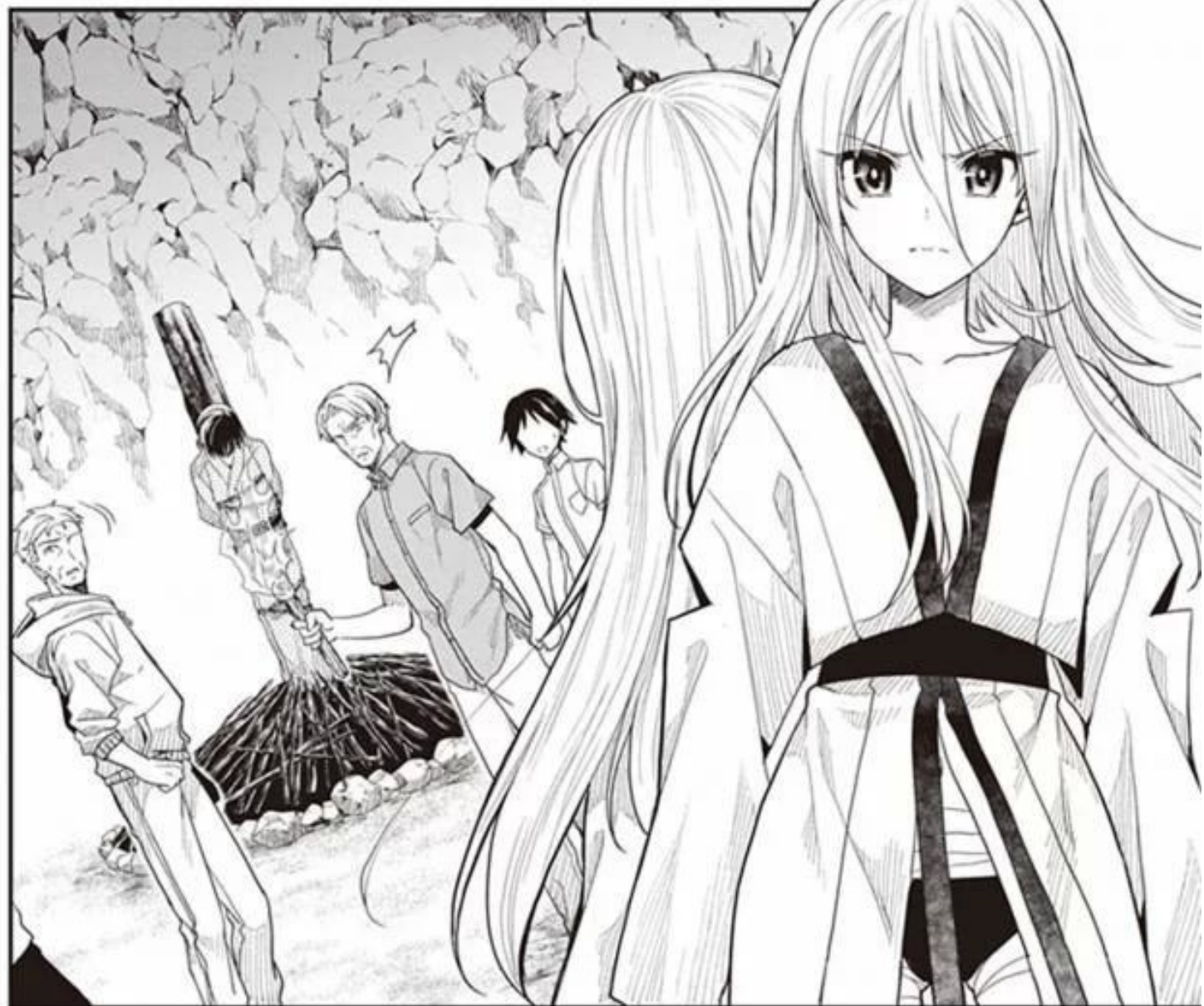




始めるぞ

目を
そらすな









待っている
すぐ助けてやる









これを
止めるため
には

一気に
現実に引き戻す
必要がある



女衆も
状況に
流されている

それに私は
もともと
女衆の人望が
あるわけではない

あくまで
呪いの樹との
アクセス権で
重宝がられている
だけだ







お前^{まえ}たちはいつも
一郎^{いちろう}太^たばかり
非^ひ難^{なん}するが

忘^{わす}れていないか？



一郎^{いちろう}太^たの
傍^{かたわ}らには常^{つね}に
私^{わたし}がいた

つま^つまり
一郎^{いちろう}太^たに
罪^{つみ}があるなら
私^{わたし}も同^{どう}罪^{ざい}だ



いちろうた
一郎太を
ばっ
罰するなら

わたし
まず私を
ばっ
罰するべき
だろう!!



……ならば
そうさせて
いただきましょう



なに
何を言い出すかと
おも
思えば……







もちろん
封印など
していないが



マハがいらない今
あの船に一番
詳しいのは一郎太と
私だということは
竹蔵たちにも
わかっているだろう

所詮
男衆はマハに
言われるがまま
メンテナンス
していたにすぎない



真の意味で
あれを
理解して
いたのは



一郎太とマハ
そして二人から
何かを聞いていた
かもしれぬ私――



媛長様も
縛り上げろ

いい加減に
しなさい



とにかく
あの船がなくなるのは
困る…!

待つてくれ

待つ必要など
ない



どわっ



……ようー



せめて確認する
時間が欲しい



狙い通り
不死を失うことへの
恐怖が男衆の顔に
冷静さを
取り戻させた

このまま
竹蔵との
分断を図れば…

証拠が
必要だ！



本当だったら
どうする

確かめもせず
もし船を失ったら…



…わかった
なら媛長は
待っておこう



だが
こいつは
別だ





この男を
このまま
置いておけば



あの悲劇が
また起こるぞ



これだけ
言われても
男衆は
迷っている……

ならば
ここで……



私^{わたし}はここから
動^{うご}かぬ



うん



いちろうた
一郎太^{いちろうた}を
焼^やき殺^{ころ}す
というなら

私^{わたし}もこの
愛^{いと}しき人^{ひと}と
命^{いのち}をとにもする
だけだ



もともと



それは
男衆たちも
同じだ



常世の村に
はいれぬまま

ほかの人間と
同じように
朽ちていけ





…思えば
この化け物に
生み出されて以来

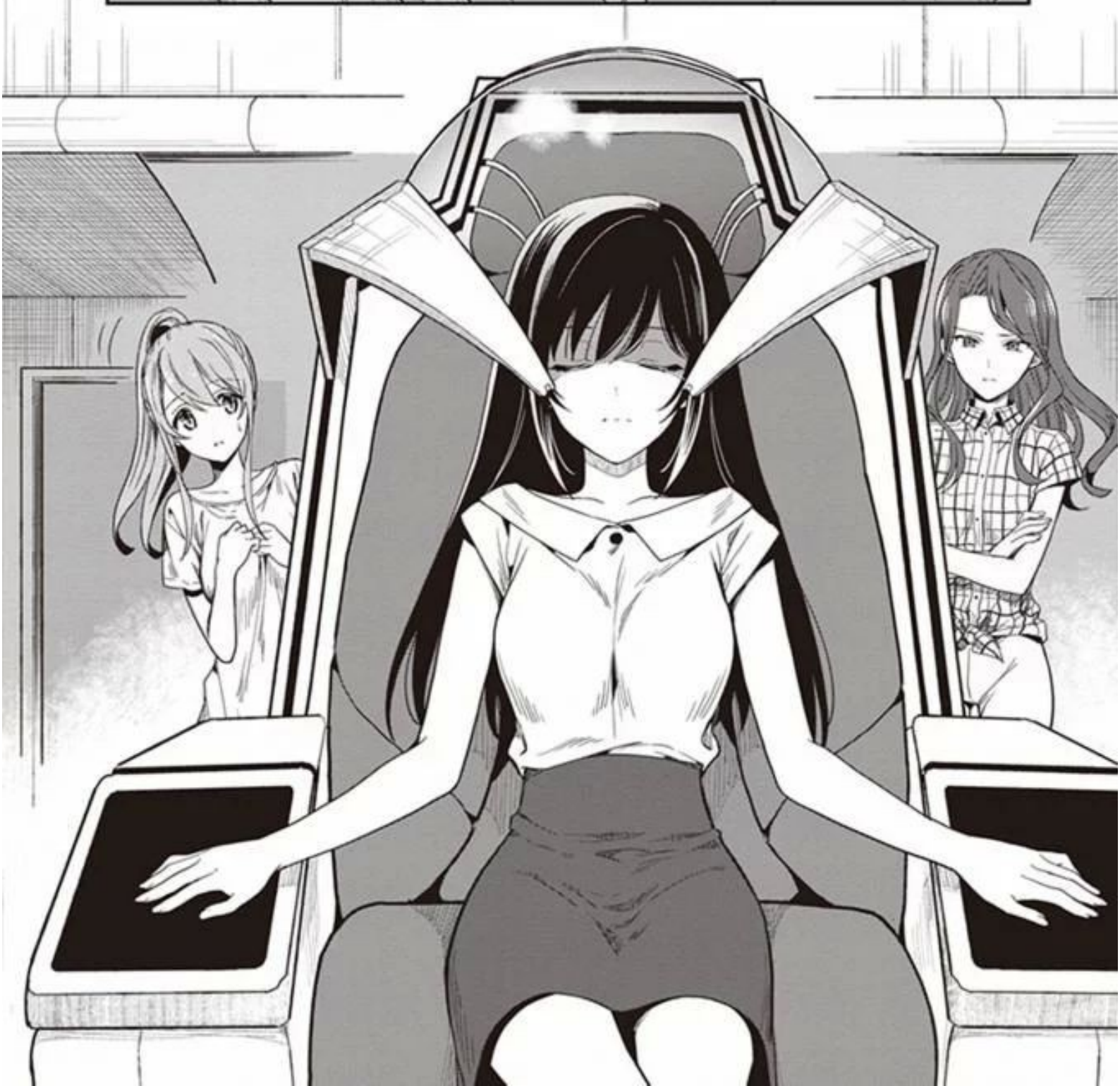
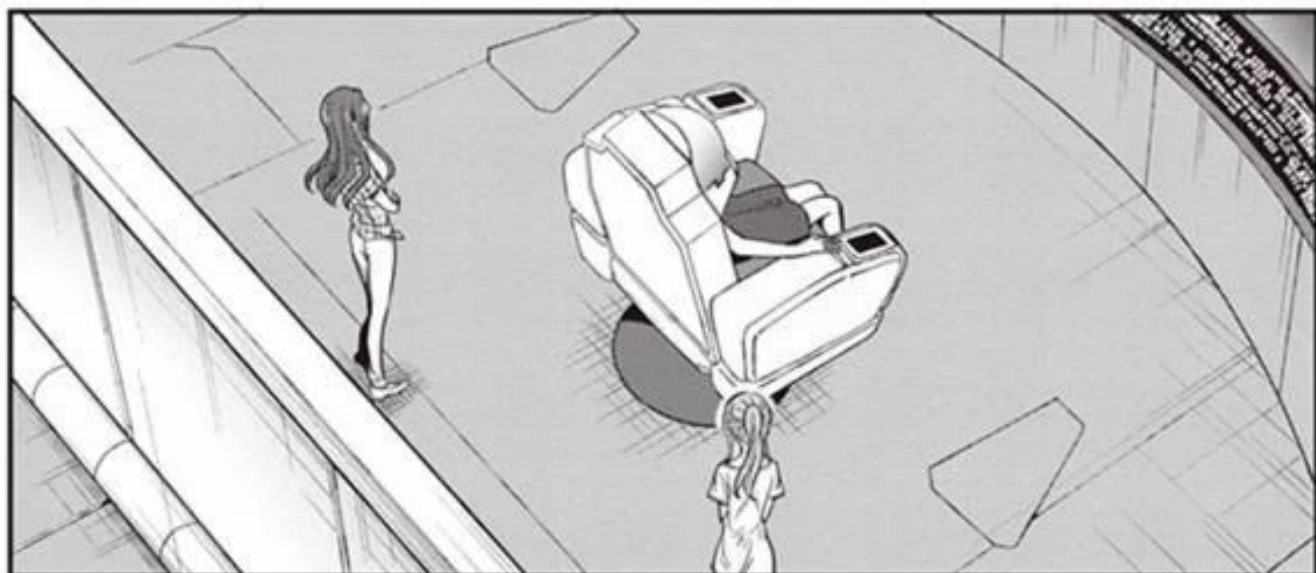
お嬢様の
ワガママに随分
振り回されて
きましたな

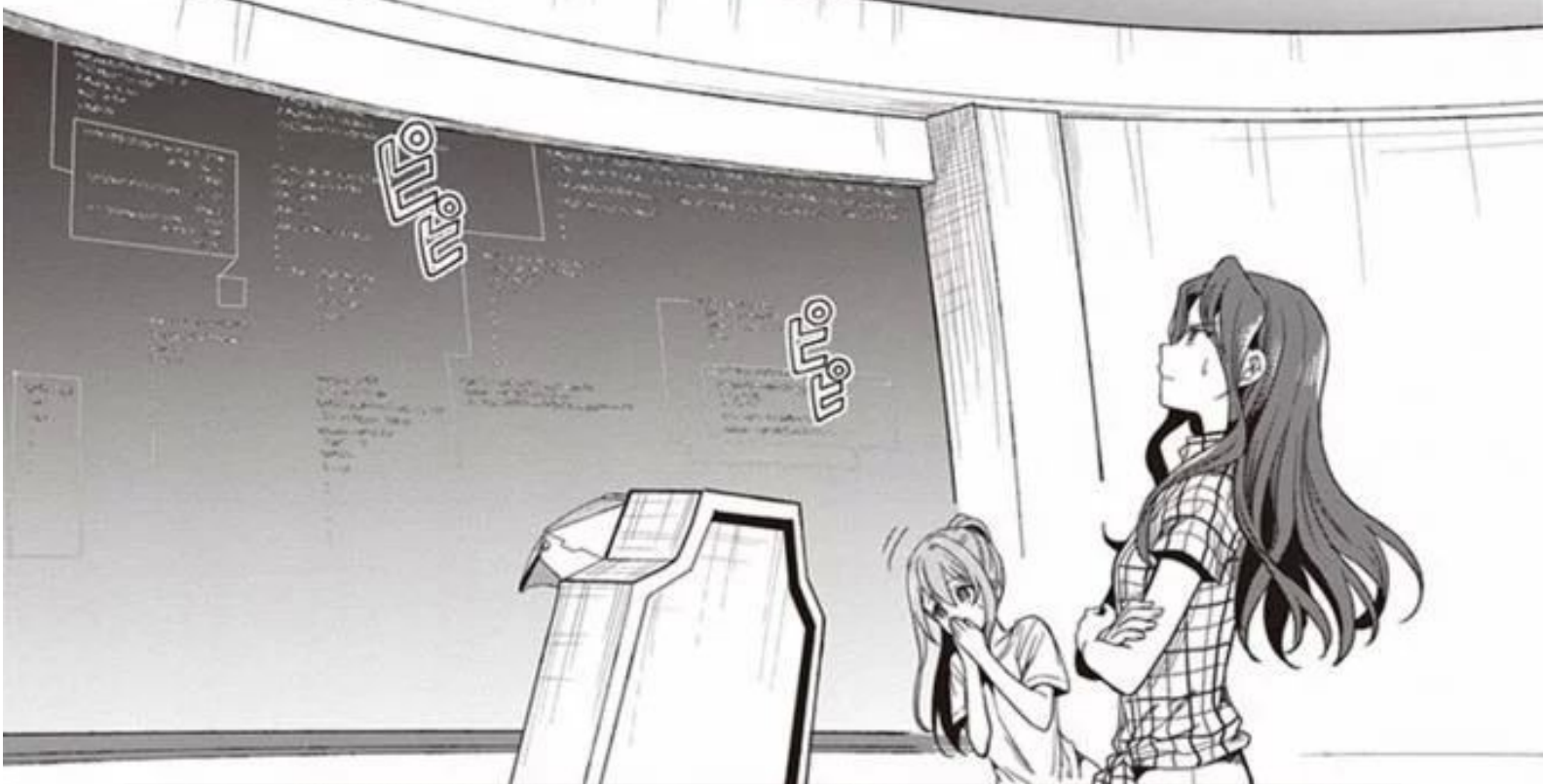
それも
終わりだと思うと
少し寂しいですぞ

この島には
淫らで
邪惡な
モノが棲む

第四十二話











真^{しん}の観^{かん}音^{のん}姫^{ひめ}

…でも
どうして…

そもそも
彼女は

島^{しま}に侵入^{しんにゅう}してきた
戦国大名・結城の手で
殺されたはず…





殺^{ころ}されたはず





急がないと

管理者が
暴走してる

キョ

キョ

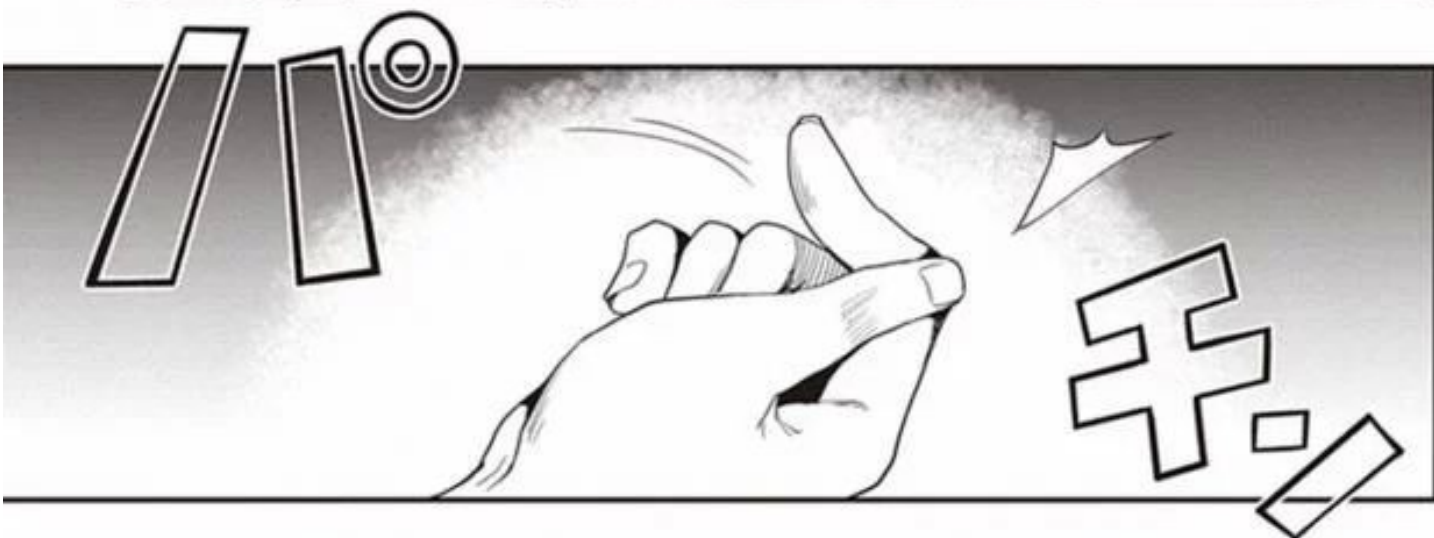
梶浦君の身体を
乗っ取っている
管理者をこちらに
戻すためには……



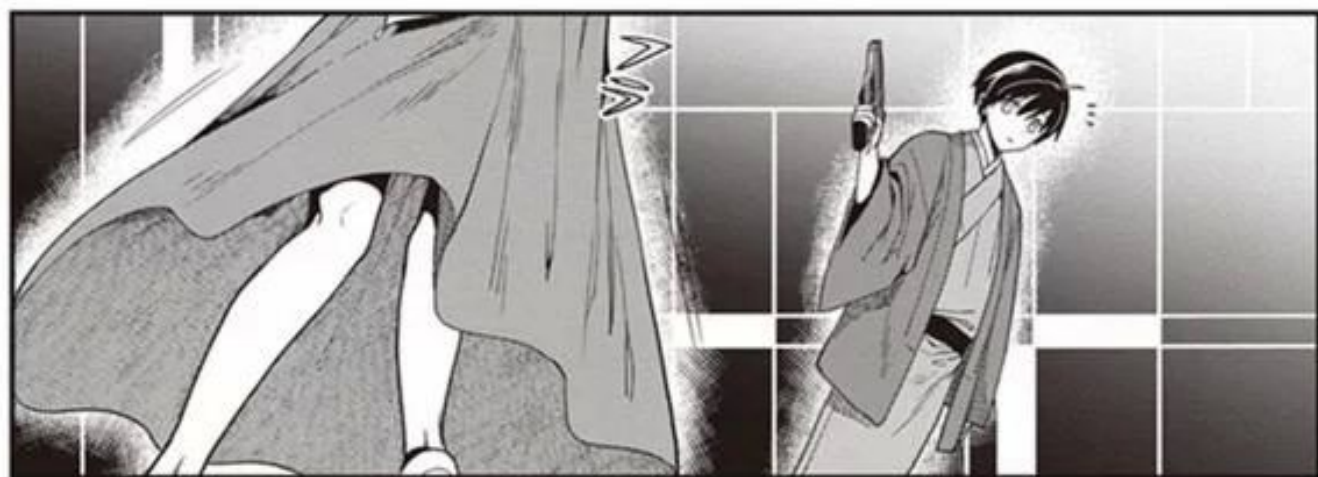


マ.
ハ.
さん

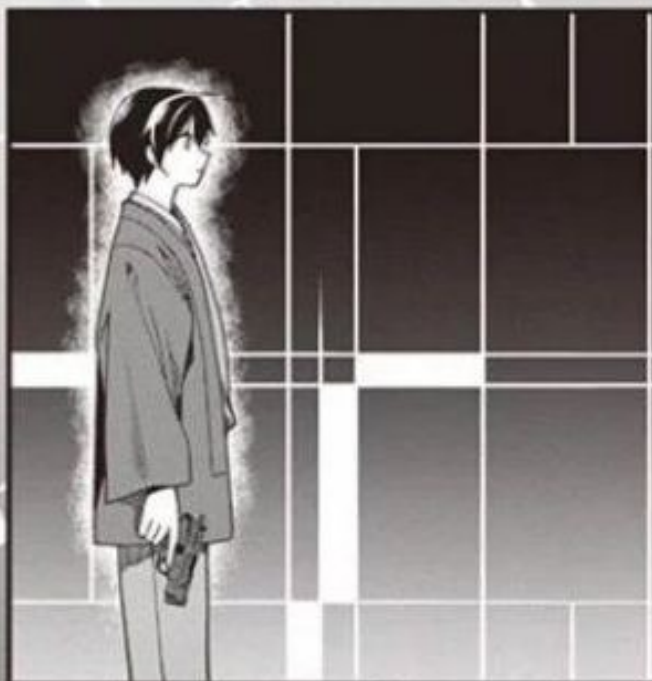










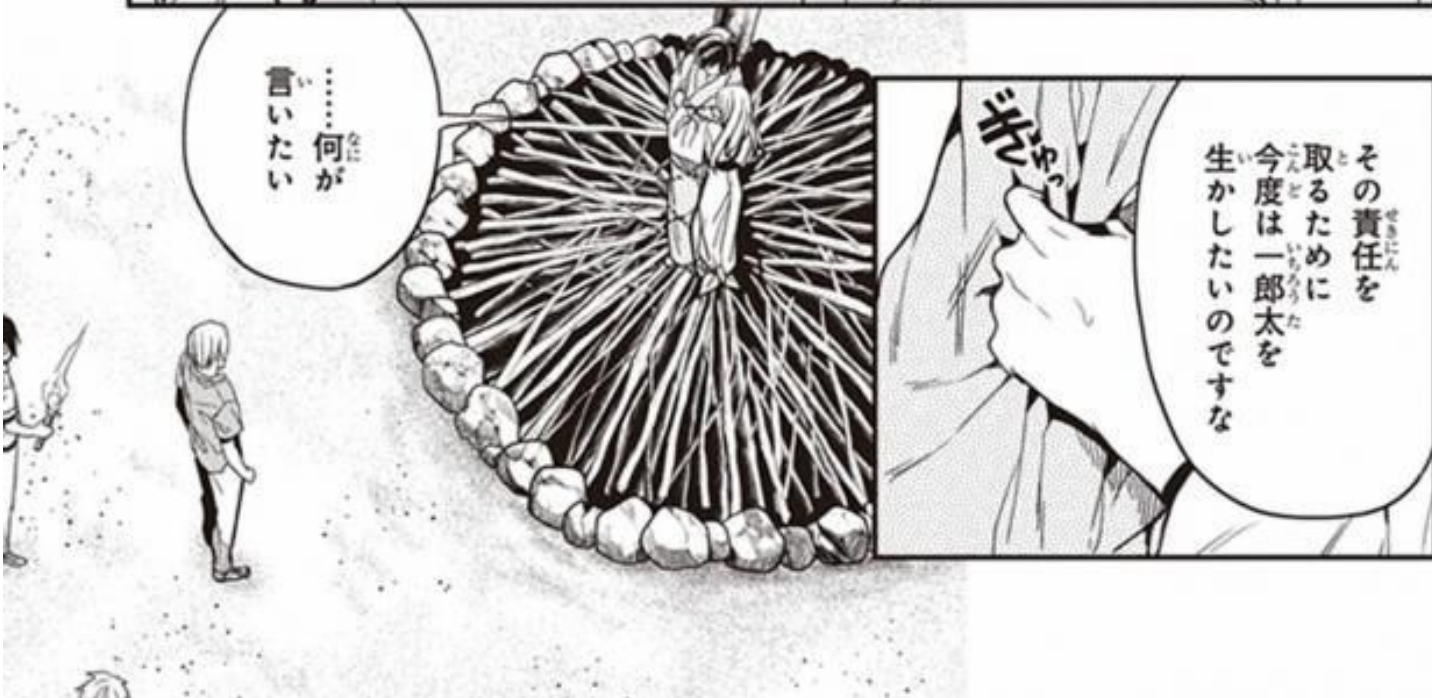


ドサッ



僕は今まで通り
ここで大人しく
してるのが
お似合ってことだ







一郎太を
殺した
負い目を

一郎太を
救うことで
打ち消したい

気持ちには
わかりますが

そのようなものに
巻き込まれるのは
ゴメンだ

ということです

!?





世界を…



俺が…？



滅ぼそうと
した？



ああ
そうだ



お前は

あの船を
もう一度飛ばすため
世界を犠牲に
しようとした

観音姫様——マハ様が
結城の兵士に
傷つけられたとき



お前は——

ギッ





酷いケガは
治したな！

まだ治していない者は
一郎太様に頼んで
すぐに治してもらえ

ドッ





…頑張ってください

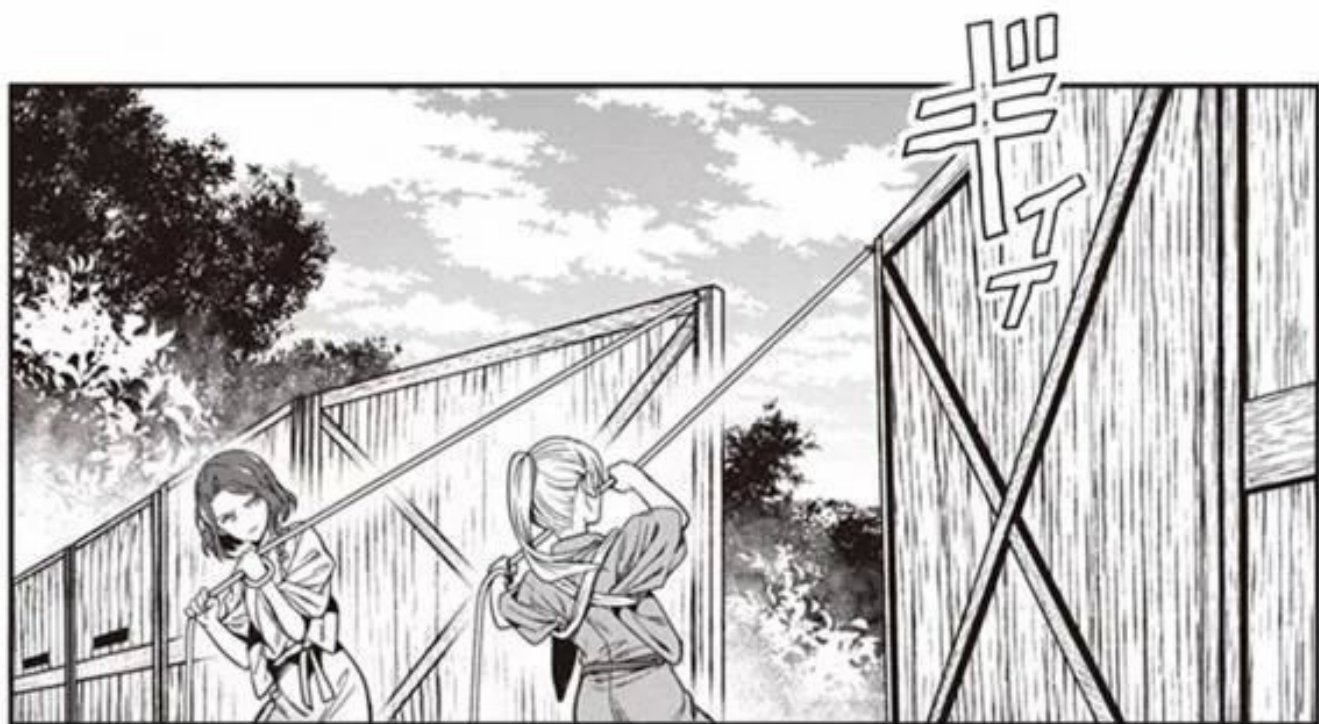


もちろん
ですとも
観音姫様!!

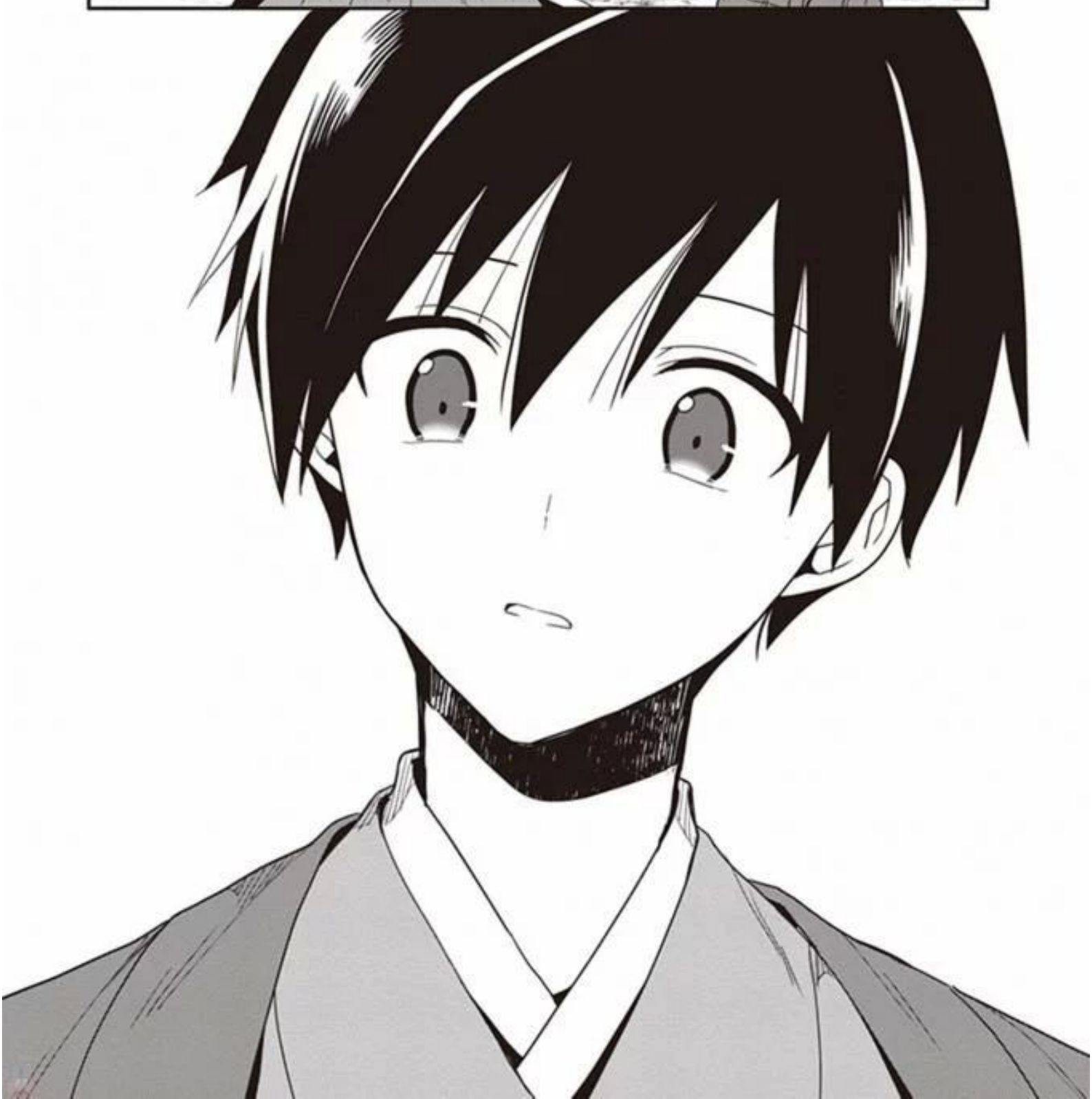
必ず邪魔な
あやつらを
始末してきますので

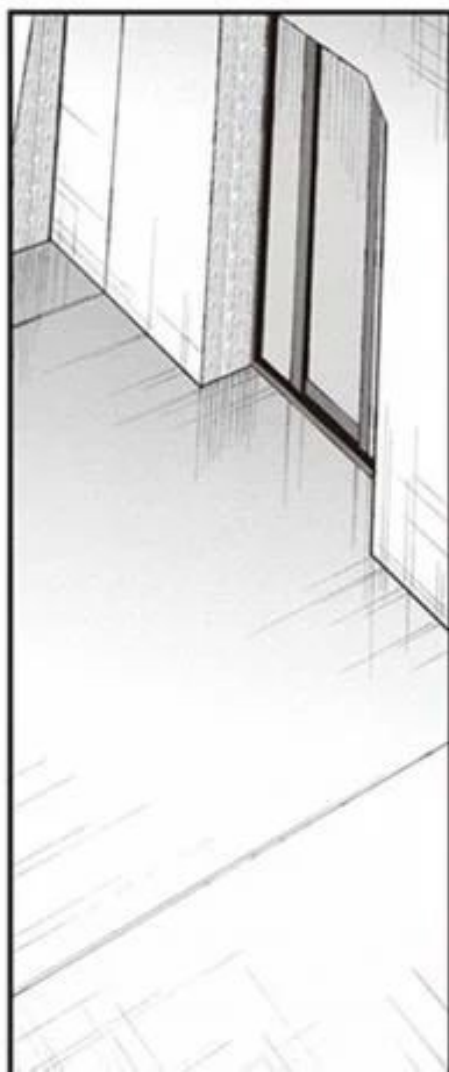
一郎太様ともども
心安らかに
お待ちください!!



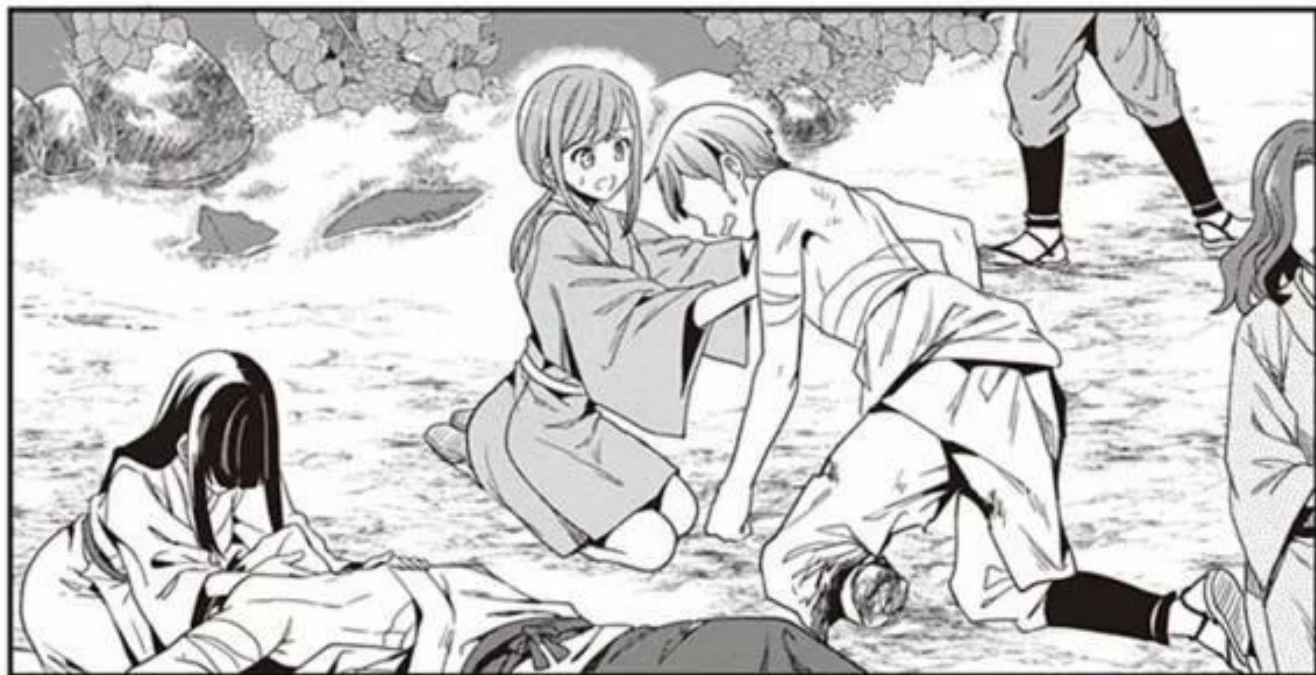














パ
ン
ク
ン



何を
している？

マハは
どうした





マハさんを
助ける方法を
思いついたんだよ！



そ

…そうか

では一度
外に――

マハさんの
身体は

僕たちと違って
一部機械で
出来ているから

そこが傷つくと
ここの設備だけじゃ
直せない







でも
まわりにいるのは
てき敵ばっかりだし

しま島の人も元々
しんでいたんだし
いいんじゃないかな



…この島の
はなし話だけではない

ギョッ





僕は
その人たちより
マハさんが大切だ





自由^{じゆう}でない
マハさんなんて…



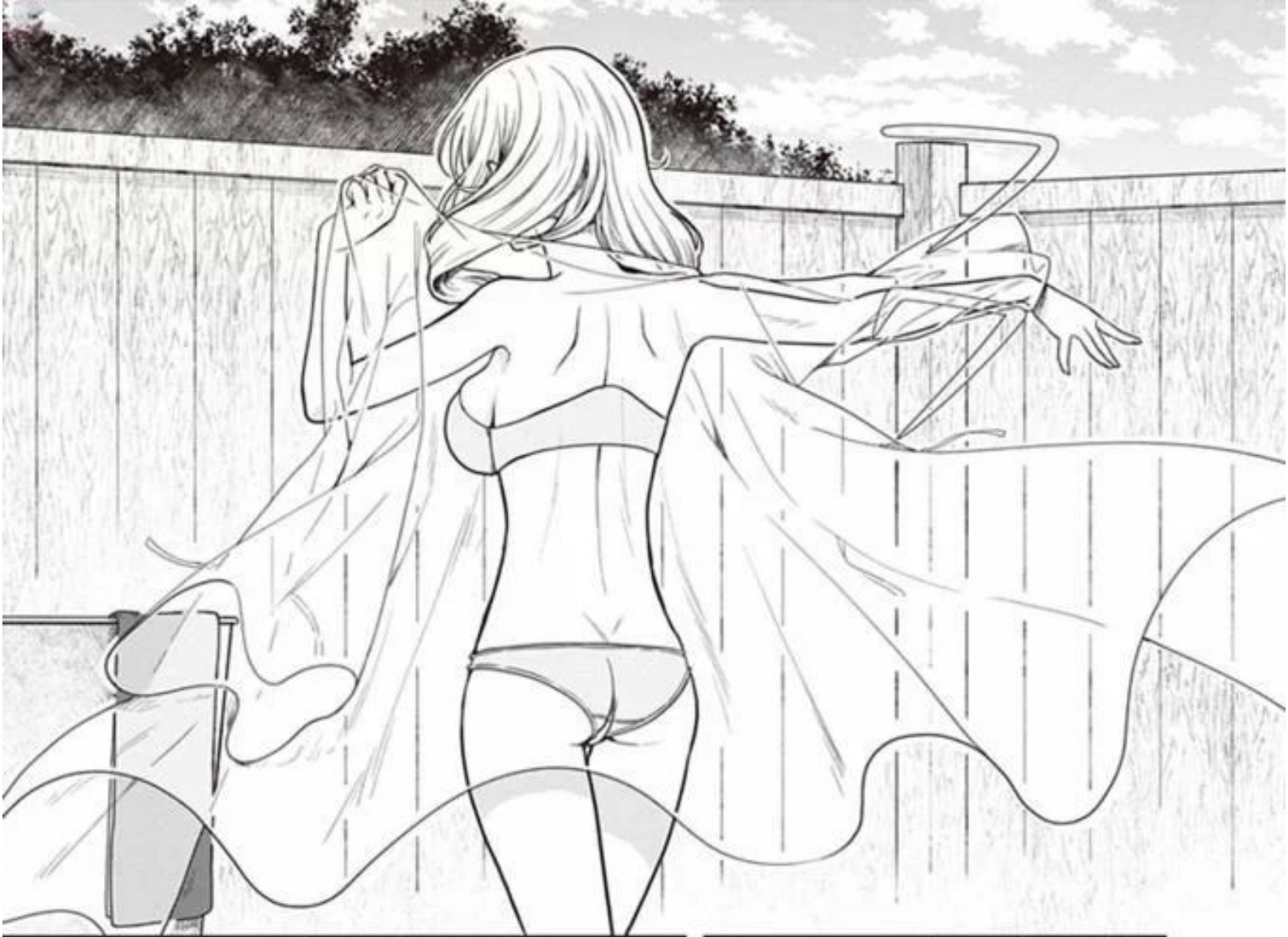
九巻に続く…

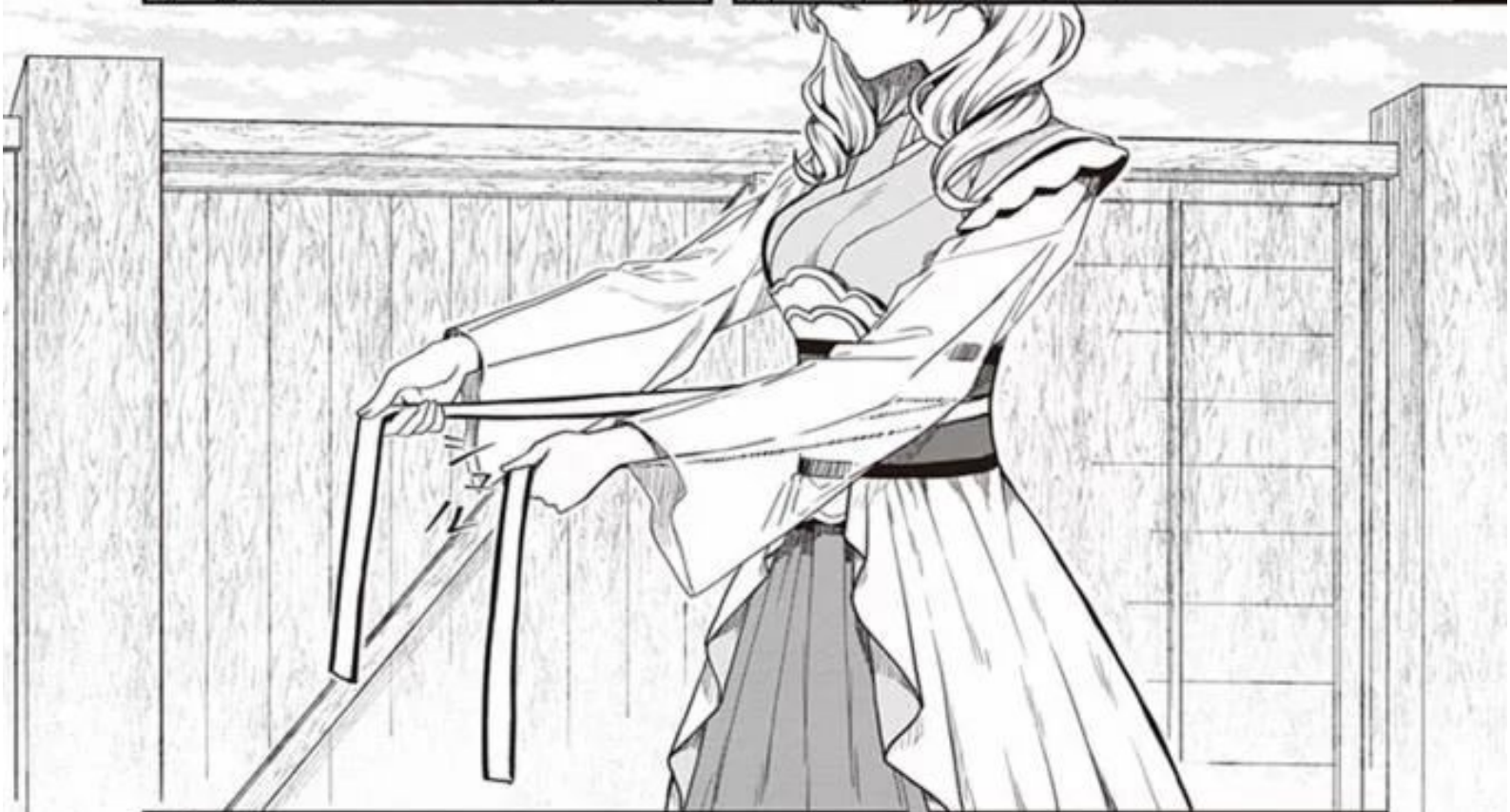
この島には
淫らで
邪悪な
モノが棲む

第二十三. 五話











予告

夜戸ハル

梶浦と同じ大学の研究室の

大人びた雰囲気を持つ美人の先輩

伊喜島 出身だが、

本来入っているはずの

魂の記憶が目覚めず、

島人にはカルマ落ちと

呼ばれている……。

真相が明かされる……！

最終第⑨巻 2018年夏頃発売予定

次巻

五百年前、

星船に乗り、伊喜島を訪れた異星の人

一郎太との交流を通して、

島に星の技術をもたらした観音姫。

しかし、現在マハの体は壊され、

魂は呪いの樹に

あるとされているが……。

本当の彼女は——？

この島に、淫らで
邪悪なモノが棲む



8

原

つ

も

い

モノ
カ
棲
む

邪
悪
な

淫
王
ら
で

この
島
には







一郎太を殺すべく、
村長率いる島の男衆が動き出した。
女衆を暴力で屈服させ、
服を脱がし拘束していく。
そこに少女、海の姿はなく……。
しかし、
一方、一郎太がもたらす刺激の
虜となった海は、彼を独占するため、
島外れの迎賓館に一郎太を監禁していた。
少女は自らの破滅を刹那の快楽にゆだねていく……。
その小さな身体を刹那の快楽にゆだねていく……。

電撃コミックスNEXT

この島には淫らで邪悪なモノが棲む⑧

著者 原 つもい

2018年2月27日 発行

©TSUMOI HARA 2018

本電子書籍は下記にもとづいて制作しました
電撃コミックスNEXT『この島には淫らで邪悪なモノが棲む⑧』
2018年2月27日 初版発行

発行者 郡司 聡
発行 株式会社KADOKAWA
<http://www.kadokawa.co.jp/>
プロデュース アスキー・メディアワークス

アスキー・メディアワークス 「お問い合わせ」
[WEB] <http://asciimw.jp/info/inquiry/>

本作品の全部または一部を無断で複製、転載、配信、送信すること、
あるいはウェブサイトへの転載等を禁止します。
また、本作品の内容を無断で改変、改ざん等を行うことも禁止します。
本作品購入時にご承諾いただいた規約により、有償・無償にかかわらず
本作品を第三者に譲渡することはできません。
本作品を示すサムネイルなどのイメージ画像は、再ダウンロード時に
予告なく変更される場合があります。
本作品の内容は、底本発行時の取材・執筆内容にもとづきます。
また、ご覧になるリーディングシステムにより、表示の差が認められることがあります。

この物語はフィクションであり、実在の人物・団体とは関係がございません。

カバー・本文デザイン 虹川貴子